

ZENworks Configuration Management マイグレーションガイド

Novell. ZENworks 11 サポートパック 2

2012年3月20日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007 - 2012 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複製転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	9
1 マイグレーションプロセス	11
2 ZENworks 11 Configuration Management SP2 と従来の ZENworks との違い	13
2.1 アーキテクチャ	13
2.1.1 従来の ZENworks のアーキテクチャ	13
2.1.2 次世代の ZENworks のアーキテクチャ	15
2.1.3 アーキテクチャ上の変更の詳細	17
2.2 システム管理	21
2.3 ワークステーション	21
2.4 インベントリ	22
2.5 イメージング	22
2.6 リモート管理	23
2.7 アプリケーション管理	23
2.8 その他の機能	24
3 マイグレーションユーティリティの理解	25
3.1 マイグレーションタスク	26
3.2 マイグレーション元/マイグレーション先	26
3.3 [今すぐ移行] ボタン	26
3.4 [キャンセル] ボタン	27
3.5 終了	27
3.6 タブの選択	27
3.6.1 ソース eDir ツリー	27
3.6.2 宛先ゾーン	28
3.7 [マイグレートする項目] タブ	29
3.8 [マイグレーション履歴] タブ	30
3.9 オプションアイコン	30
3.10 プロセス全体	31
4 ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画	33
4.1 マイグレーション候補	33
4.2 ZENworks Migration Utility のダウンロードおよびインストール	34
4.3 ZENworks Migration Utility の機能	34
4.3.1 移行済み	35
4.3.2 移行なし	35
4.3.3 その他のソフトウェア	35
4.4 マイグレーションの計画	36
4.4.1 ZENworks システムの共存	36
4.4.2 LDAP 認証	37
4.4.3 PXE デバイスとサーバ参照リスト	38
4.4.4 インクリメンタルマイグレーション	39
4.4.5 マイグレーション順序	39
4.4.6 管理ゾーンの設定	40
4.4.7 ワークステーションの移行	40

4.4.8	ユーザの識別	41
4.4.9	Configuration Management 内のフォルダ使用	41
4.4.10	マイグレーションモデリング	42
4.4.11	最新情報	43
5	ZENworks Configuration Management への移行	45
5.1	前提条件	45
5.2	ZENworks Migration Utility の開始	47
5.3	マイグレーション元の選択	49
5.4	マイグレーション先の選択	51
5.5	アプリケーションの移行	53
5.6	イメージの移行	60
5.7	ポリシーの移行	64
5.8	管理ゾーン設定の移行	69
5.9	ワークステーションの移行	71
5.10	関連付けの移行	75
5.11	同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションの移行	81
5.12	管理する移行済みワークステーションの設定	82
5.13	移行したワークステーションのイメージの作成	83
5.14	ZENworks の従来のインストールの管理	83
A	マイグレーションデータ	85
A.1	アプリケーション	85
A.2	イメージ	88
A.3	ポリシー	89
A.4	管理ゾーンの設定	91
A.5	ワークステーション	93
A.6	関連付け	93
B	マイグレーションオプション	95
B.1	マイグレーションユーティリティによるマイグレーションオプションの設定	95
B.1.1	一般	96
B.1.2	アプリケーション	97
B.1.3	関連付け	99
B.1.4	イメージング	99
B.1.5	ポリシー	99
B.1.6	ゾーンの設定	99
B.1.7	ワークステーション	99
B.1.8	Web クライアント環境設定	100
B.2	レジストリエディタによる MSI アプリケーションを移行する追加オプションの設定	100
C	トラブルシューティング	103
D	ベストプラクティス	109
D.1	Windows Vista デバイスでのマイグレーションユーティリティの実行	109
D.2	マイグレーションオプションの選択	109
D.3	オブジェクトをコンテンツサーバにアップロード	109
D.4	アプリケーションをアクションまたは MSI として移行	110
D.5	ネットワークファイルの使用	110

D.6	マイグレーションユーティリティで関連付けをリスト	111
D.7	マイグレーションユーティリティで AppFsRights 属性を持つアプリケーションオブジェクトをリスト	111
D.8	ファイルアップロード HTTP ポートと Web サービスポートを指定して、移行先管理ゾーンにログイン	111
D.9	グループポリシーの移行	111
D.10	個々のアクションとして多数の INI またはレジストリ操作を含むアプリケーションを移行	111

このガイドについて

この『Novell ZENworks 11 SP2 Configuration Management マイグレーションガイド』では、従来の Novell ZENworks から次世代の ZENworks である Novell ZENworks 11 SP2 Configuration Management に移行するために必要な情報、手順およびプロセスについて説明します。このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 11 ページの第 1 章「マイグレーションプロセス」
- ◆ 13 ページの第 2 章「ZENworks 11 Configuration Management SP2 と従来の ZENworks との違い」
- ◆ 25 ページの第 3 章「マイグレーションユーティリティの理解」
- ◆ 33 ページの第 4 章「ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画」
- ◆ 45 ページの第 5 章「ZENworks Configuration Management への移行」
- ◆ 85 ページの付録 A「マイグレーションデータ」
- ◆ 95 ページの付録 B「マイグレーションオプション」
- ◆ 103 ページの付録 C「トラブルシューティング」
- ◆ 109 ページの付録 D「ベストプラクティス」

対象読者

このガイドは、ZENworks Configuration Management 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用してください。

その他のマニュアル

ZENworks 11 SP2 Configuration Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、[ZENworks 11 SP2 マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks11\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks11) を参照してください。

マイグレーションプロセス

1

Novell ZENworks 11 SP2 Configuration Management では、従来のバージョンの ZENworks とは異なるアーキテクチャが導入されています。ZENworks のパワーと新機能を活用するには、標準的なアップグレードを実行するのではなく、従来のシステムから移行する必要があります。

Novell ZENworks 11 SP2 Configuration Management にマイグレートするには、次の操作を行います。

1. 13 ページの第 2 章「ZENworks 11 Configuration Management SP2 と従来の ZENworks との違い」をよく読んで、Configuration Management と従来の ZENworks の違いを理解します。
2. (オプション) Configuration Management の概要は、「製品の概要」(『ZENworks 11SP2 管理クイックスタート』)を参照してください。
3. ZENworks 11 SP2 Configuration Management を少なくとも 1 つのサーバにインストールして、従来の ZENworks の情報を移行できる管理ゾーンを設定します。インストール手順については、『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』を参照してください。
4. 次のガイドの手順に従って、従来の ZENworks システムを Configuration Management に移行します。
 - ◆ 33 ページの第 4 章「ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画」
 - ◆ 45 ページの第 5 章「ZENworks Configuration Management への移行」
5. (オプション) 『Novell ZENworks 11 SP2 Asset Management マイグレーションガイド』の指示に従って、従来の ZENworks Asset Management のインストールを Configuration Management にマイグレートします。
6. (オプション) 『AdminStudio インストールガイド』を使用して、Configuration Management の各エディションに付属の AdminStudio をインストールします。マニュアルは、Novell マニュアルサイト (<http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks112>) で入手できます。

AdminStudio により、アプリケーションやパッチをパッケージ化、テスト、配布、および管理する方法を引き続き標準化できます。
7. 『ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート』を参照して、Configuration Management の使用を開始します。このガイドは Configuration Management を起動および実行するための操作方法を説明しています。

ZENworks 11 Configuration Management SP2 と従来の ZENworks との違い

Novell ZENworks 11 Configuration Management SP2 へ移行するには、まず Configuration Management と従来の ZENworks の違いを理解したうえで、従来のデータを新しい Configuration Management システムへ移行することをお勧めします。

次のセクションでは、ZENworks 11 Configuration Management SP2 の新機能または相違点について説明します。

- ◆ 13 ページのセクション 2.1 「アーキテクチャ」
- ◆ 21 ページのセクション 2.2 「システム管理」
- ◆ 21 ページのセクション 2.3 「ワークステーション」
- ◆ 22 ページのセクション 2.4 「インベントリ」
- ◆ 22 ページのセクション 2.5 「イメージング」
- ◆ 23 ページのセクション 2.6 「リモート管理」
- ◆ 23 ページのセクション 2.7 「アプリケーション管理」
- ◆ 24 ページのセクション 2.8 「その他の機能」

2.1 アーキテクチャ

従来のバージョンの ZENworks Desktop Management と同様に、ZENworks 11 Configuration Management SP2 は、Windows サーバとワークステーションを包括的に管理します。ただし、その基になるアーキテクチャは広範にわたって変更されています。

次の項では、アーキテクチャの相違点について説明します。

- ◆ 13 ページのセクション 2.1.1 「従来の ZENworks のアーキテクチャ」
- ◆ 15 ページのセクション 2.1.2 「次世代の ZENworks のアーキテクチャ」
- ◆ 17 ページのセクション 2.1.3 「アーキテクチャ上の変更の詳細」

新しいアーキテクチャの詳細については、「[「システムアーキテクチャ」](#)」(『ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート』)を参照してください。この情報は、Standard および Advanced の両エディションの『Getting Started Guide』にも記載されています。

2.1.1 従来の ZENworks のアーキテクチャ

既存の Novell ZENworks ソリューションは、次の理由から強力です。

- ◆ **柔軟性**：ロジックはオブジェクトストア内に存在するため、アーキテクチャ上の大規模なオーバーホールを実施しなくても、コンテンツやサービスを容易に移動できます。

- ◆ **シンプル性**：複数のサービスは非常に簡単な方法で連携しているため、管理者はアーキテクチャを容易に理解、展開、および管理できます。
- ◆ **スケーラビリティ**：現在販売されているシステム管理製品の中でも、ZENworks ほどの拡張性を備えたものはありません（実際、単一の ZENworks システムで管理可能なユーザ数に、現在までに判明している制限はありません）。

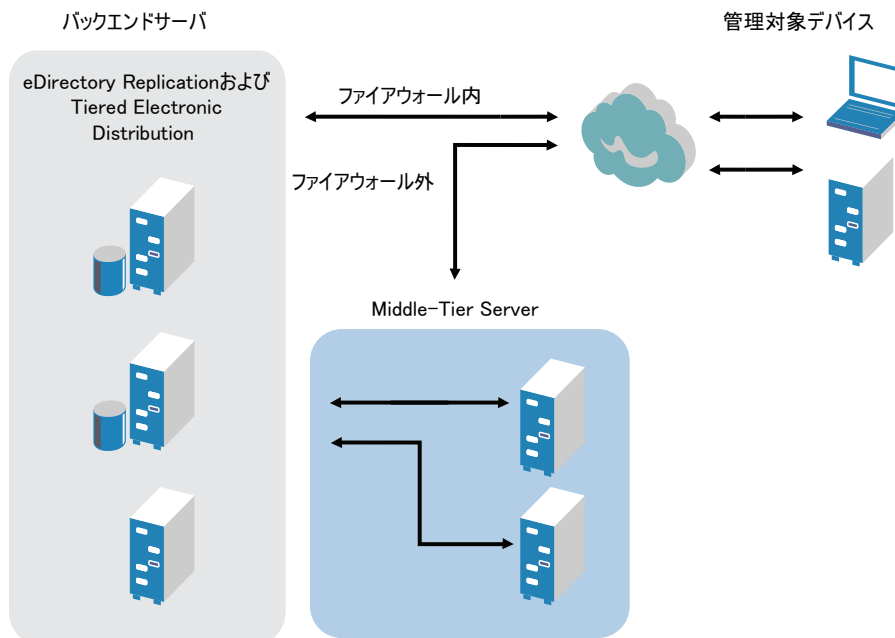
新しいインフラストラクチャにも、既存の環境と同様の柔軟性、シンプル性、およびスケーラビリティが求められます。したがって、既存のバージョンの ZENworks 11 Configuration Management SP2 と旧バージョンの Novell ZENworks のアーキテクチャ上の違いについて十分に理解しておくに役立ちます。

Novell ZENworks 7.x は、従来の ZENworks アーキテクチャを踏襲した最後のリリースです。従来の ZENworks のアーキテクチャは 2 層型で、オブジェクトストア (Novell eDirectory) への直接アクセスを利用して構成情報を取得します。ZENworks サービス、特にディレクトリ内に保存されているオブジェクト情報やロジックにアクセスするには、すべてのワークステーションに Novell Client32 をインストールするか、またはミドルティアを設定する必要がありました。

従来の ZENworks では、ポリシー検索、Launcher の更新などのかたちで、クライアント側で大量のロジックと処理が実行されていた点に注意することが重要です。つまり、ほとんどの作業はクライアントが実行していました。この設定には、製品のスケーラビリティにとって大きな効果があります。100 台のクライアントの作業を 1 つのサーバですべて実行するのではなく、作業負荷全体が 100 台のクライアントすべてに分散されるためです。

図 2-1 は、Novell ZENworks Desktop Management の従来のアーキテクチャを示しています。

図 2-1 ZENworks Desktop Management のアーキテクチャ



従来の ZENworks のアーキテクチャには、次のような特徴があります。

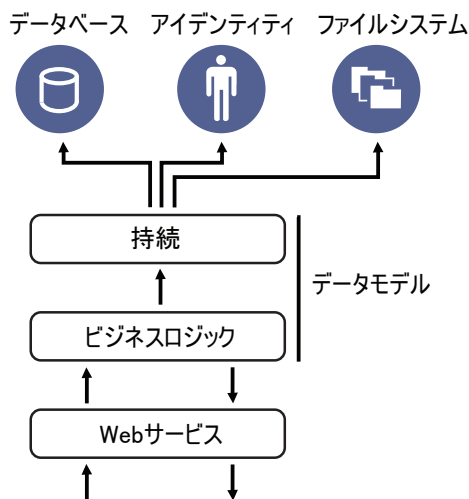
- ◆ ZENworks 管理エージェントがすべてのワークステーションにインストールされている
 - ◆ NetWare 環境では Client32 が必要
 - ◆ ミドルティアサーバは、Novell Client が管理対象デバイスにインストールされていない場合に必要です。
- ◆ すべてのユーザのワークステーションと ZENworks オブジェクトにとって、eDirectory はオブジェクトストアとして重要な要件である
- ◆ ZENworks インフラストラクチャを管理するために Novell ConsoleOne が必要
- ◆ eDirectory 環境へのアクセスはすべて NCP(NetWare Core Protocol) を経由する
- ◆ クロスプラットフォーム製品であり、Linux、NetWare、および Windows 上でのサービスの実行をサポートしている

2.1.2 次世代の ZENworks のアーキテクチャ

Novell ZENworks 11 Configuration Management SP2 には、サービス志向アーキテクチャ (SOA) として知られる 3 層のアーキテクチャが備わっています。このアーキテクチャでは各コンポーネントは分離され、製品は大幅にモジュール化されます。これによって複数の層を独立して更新できるようになるため、ビジネスロジックの変更や新モジュールの追加がさらに容易になります。

Novell ZENworks 11 Configuration Management SP2 では、サーバ側のインフラストラクチャは 2 つの層からなっています (図 2-2 参照)。第 1 層はデータモデルで、第 2 層はファイルシステム (実際のファイルの保存用)、データベース (ZENworks 情報の保存用)、およびオプションの識別情報ストア (ユーザベースのリソース管理を可能にします) で構成されます。ZENworks 11 Configuration Management のリリースにより、ユーザ識別情報のユーザソースとして、Novell eDirectory と Microsoft Active Directory がネイティブにサポートされます。

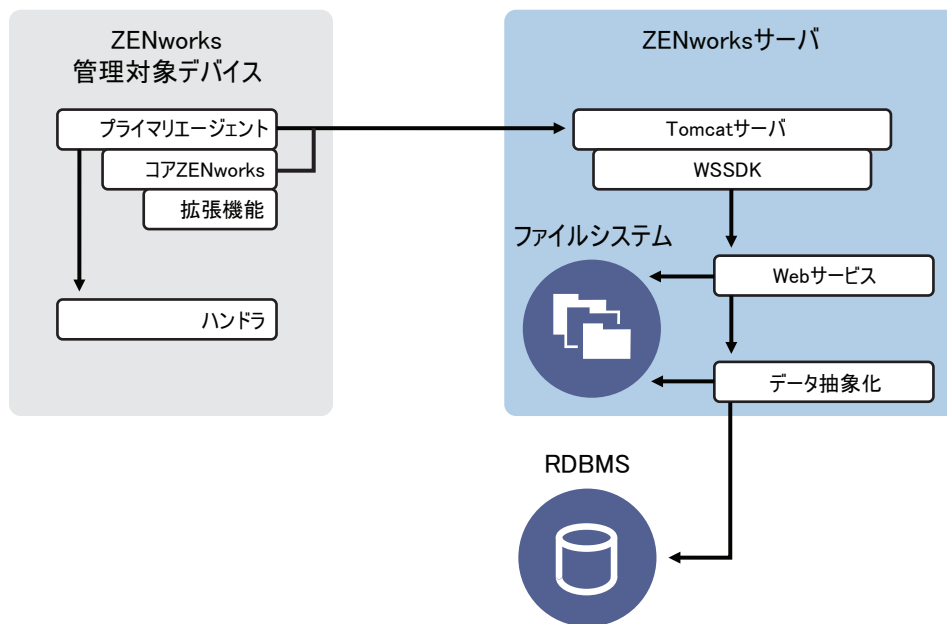
図 2-2 ZENworks 11 の 3 階層アーキテクチャ



新しいアーキテクチャでは、Novell ZENworks 11 Configuration Management SP2 は eDirectory から分離され、eDirectory は製品の機能上、重要な要件ではなくなりました。システム管理サービスを提供するためにディレクトリを管理しなくても済むようになったのです。ただし、これは、ZENworks 11 Configuration Management SP2 を既存の eDirectory 環境と統合してもメリットがないという意味ではありません。実際には、ユーザ識別情報に既存のディレクトリインフラストラクチャを引き続き使用できますが、スキーマを拡張したり、eDirectory を実行するサーバにこの製品をインストールしたりする必要がなくなったということです。

アーキテクチャ上のもう 1 つの大きな変更点は、クライアントとサーバが相互に通信する方法です (図 2-3 を参照してください)。Novell ZENworks エージェント (ZENworks Adaptive Agent) は引き続き管理対象デバイス上で実行されますが、大部分の作業 (ロジックおよび作業負荷) はサーバ側で行われます。図 2-3 に示すように、サーバ側 (ZENworks 11 Configuration Management SP2 プライマリサーバ上の Web サーバ) との通信を開始するのはクライアントですが、サーバもクライアントと直接通信することができます。クライアントとサーバは、HTTP、HTTPS、SOAP、CIFS、LDAP といった業界標準のプロトコルを使用します。クライアントは HTTP または HTTPS 上でサーバと通信し、サーバは HTTPS 上で SOAP (Simple Object Access Protocol) 経由で Adaptive Agent と通信します。

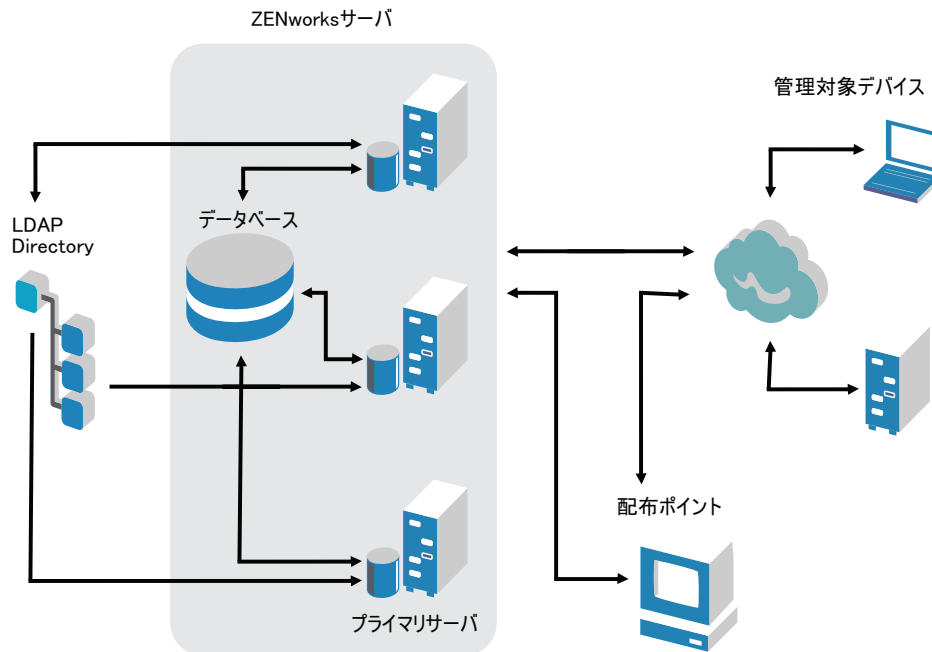
図 2-3 ZENworks 11 SP2 クライアント - サーバアーキテクチャ



アーキテクチャ上の観点から見ると、管理対象デバイスはサーバのバックエンド Web サービスと通信し、プライマリサーバがクライアントに処理内容とコンテンツの入手場所を指示します (図 2-4 を参照してください)。実質的には、サーバがクライアントに命令を送信し、クライアントは必要なハンドラを使用して、ソフトウェアのインストール、ポリシーの適用、システムのリモート管理などのタスクを実行します。

識別情報の観点から見ると、管理対象デバイスのユーザは、ユーザのオブジェクトが格納されている識別情報ストア (Novell eDirectory または Microsoft Active Directory) と直接通信します。Novell ZENworks のオブジェクトストアに格納される識別情報関連の情報は実際の識別情報をポイントする参照オブジェクトだけであるため、ユーザベースのリソース管理の効率が向上します。

図 2-4 ZENworks 11 SP2 アーキテクチャ



新しい Novell ZENworks 11 Configuration Management SP2 アーキテクチャには、次の重要な特徴があります。

- ◆ すべての管理対象デバイスへの ZENworks Adaptive Agent のインストール
- ◆ 3 層 SOA
- ◆ タスクの計算処理用に追加のプライマリサーバ (管理対象デバイスの負荷を軽減します)
- ◆ Novell eDirectory に対する具体的な要件がない
- ◆ 管理対象デバイスまたはサーバにインストールする Novell Client32 に要件はない
- ◆ ZENworks オブジェクト、設定、および機能すべてを管理するための新しい Web ベースの管理コンソール (ZENworks コントロールセンター)
- ◆ Novell eDirectory と Microsoft Active Directory の両方のネイティブサポート
- ◆ 業界標準プロトコルの使用
- ◆ 1 回サーバを直接インストールすれば、管理対象デバイスは ZENworks コントロールセンターによってサーバから展開される
- ◆ Windows Server 2003、Windows Server 2008、または SUSE Linux Enterprise Server のいずれかにプライマリサーバソフトウェアをインストール

2.1.3 アーキテクチャ上の変更の詳細

次のセクションでは、アーキテクチャ上の相違点についてさらに詳しく説明します。

- ◆ [18 ページの「管理コンソール」](#)
- ◆ [18 ページの「ソフトウェアリポジトリ」](#)
- ◆ [18 ページの「Novell eDirectory」](#)

- ◆ 19 ページの「オブジェクト管理」
- ◆ 20 ページの「ユーザ管理」
- ◆ 20 ページの「クライアントエージェント」
- ◆ 21 ページの「Middle Tier Server」

管理コンソール

Web ベースの管理コンソールである ZENworks コントロールセンターは、Configuration Management のグラフィカル管理インターフェースとして使用され、従来の ZENworks で使用されている ConsoleOne を置き換えるものです。

- ◆ **管理者の役割** : ZENworks コントロールセンターは、その新しいアーキテクチャ設計に固有の充実した管理者の役割を備えています。詳細については、「[管理者と管理者グループ](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。
- ◆ **監視リスト** : ZENworks コントロールセンターのホームページには監視リストが備わっています。ここから、選択したデバイスやバンドルの現在のステータスだけでなく、管理ゾーンの総合的な統計情報も参照することができます。詳細については、「[監視リストの作成](#)」(『ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート』)を参照してください。
- ◆ **iManager** : すでに Novell iManager を使用してその他の Novell 製品を管理している場合は、iManager から起動するように ZENworks コントロールセンターを設定できます。詳細については、「[Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

ソフトウェアリポジトリ

管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバには同じコンテンツが格納されており、ゾーン内のすべての管理対象デバイスに冗長性を提供します。詳細については、「[コンテンツリポジトリ](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

Configuration Management では、従来の負荷分散手法による耐障害性に代わって、コンテンツのレプリケーションと最近接サーバルールが採用されています。詳細については、「[コンテンツの複製](#)」と「[Location Awareness](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

Novell eDirectory

Novell eDirectory はデータストレージ用としては必要なくなり、代わりに ZENworks Configuration Management データベースが使用されます。これは、次のようないくつかの点で従来の ZENworks と異なります。

- ◆ **ZENworks データベース** : 古い ZENworks データベースおよびすべての eDirectory ツリーオブジェクト情報ストアに代わって、新しい ZENworks データベースが採用されています。Configuration Management では、eDirectory のコンテナとコンテキストではなく、データベースフォルダと、フォルダ / オブジェクト階層に関連する継承機能を使用します。この新しいデータベースは、Configuration Management のすべてのデータのコンテンツリポジトリです。

Configuration Management で使用可能なデータベースの詳細については、「[データベースの要件](#)」(『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』)を参照してください。選択したデータベースの保守の詳細については、「[データベース管理](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

- ◆ **スキーマ拡張なし** : Configuration Management は ZENworks データベースのすべてのデータを保存するため、Novell eDirectory スキーマには影響しません。ユーザ情報を参照する場合、eDirectory へのアクセスはすべて読み込み専用です。
- ◆ **ユーザソース** : eDirectory と Active Directory をユーザのソースとして使用できます。このためには、ディレクトリへの読み込み専用 LDAP リンクを定義して、ユーザが存在するコンテキストを指定します。ZENworks はユーザへの参照を専用のデータベース内に作成するため、ZENworks の管理作業は、ディレクトリ内ではなく、完全に ZENworks データベース内で実行できます。ユーザ割り当てではなくデバイス割り当てを使用してデバイスを管理する予定のみの場合、ユーザソースは必要ありません。詳細については、[20 ページの「ユーザ管理」](#)を参照してください。
- ◆ **管理ゾーン** : プライマリサーバと管理対象デバイスは、eDirectory ツリーで提供されていた組織に代わって、管理ゾーンにまとめられます。

オブジェクト管理

Configuration Management は、eDirectory オブジェクトではなく、ZENworks コントロールセンターオブジェクトを使用します。いくつかの相違点について次に説明します。

- ◆ **ダイナミックグループ** : これは Configuration Management の新機能です。グループとダイナミックグループの両方を使用できます。ソフトウェアおよびポリシー割り当ての観点から見ると、グループとダイナミックグループの機能は同じです。2つのタイプのグループの唯一の違いは、グループにデバイスを追加する方法です。グループの場合は、手動でデバイスを追加する必要があります。ダイナミックグループでは、グループのメンバに合致するデバイスの条件を定義しておき、デバイスがその条件に一致すると自動的に追加されます。

複数のダイナミックグループがあらかじめ定義されていますが、独自のダイナミックグループを定義することもできます。

詳細については、「[グループ](#)」(『ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート』)を参照してください。

- ◆ **継承** : 次の複数の方法で設定を行うことができます。
 - ◆ 管理ゾーン内にあるすべてのZENworks コントロールセンターオブジェクト(デバイスまたはバンドル)に対してグローバル
 - ◆ フォルダとそのサブフォルダ内にあるすべてのオブジェクトに対して
 - ◆ オブジェクトのグループ(定義済み、ユーザ定義、およびダイナミックグループを使用可能)に対して
 - ◆ 個々のオブジェクトに対して

詳細については、「[デバイスの分類: フォルダおよびグループ](#)」(『ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート』)を参照してください。

- ◆ **関連付け** : Configuration Management では、ZENworks コントロールセンターオブジェクトは、eDirectory オブジェクトに関連付けられるのではなく、相互(バンドルやデバイスなど)に割り当てられます。Configuration Management に移行する際、割り当てと関連付けの違いについて考慮する必要があります。詳細については、[75 ページのセクション 5.10「関連付けの移行」](#)を参照してください。

ユーザ管理

Configuration Management は、eDirectory または Active Directory のいずれかにある既存の LDAP ユーザソースを参照します。ユーザは、Configuration Management に移行されません。これにより ZENworks は、ユーザオブジェクトに対してネイティブに加えられた変更を直ちに認識できます。詳細については、「ユーザソース」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

クライアントエージェント

ZENworks Desktop Management Agent に代わり、ZENworks Adaptive Agent が使用されます。これらには次のような違いがあります。

- ◆ **展開** : ZENworks コントロールセンターを使用すると、IP アドレスまたは LDAP ディレクトリコンテキストがわかっているワークステーション (あるいは ZENworks に搭載されている LDAP ディレクトリディスカバリテクノロジーのネットワークディスカバリを使用して検出されたワークステーション) すべてに Adaptive Agent を展開できます。
- ◆ **機能** : すべての機能 (ソフトウェア配布、イメージング、リモート管理、ポリシー) は Adaptive Agent のインストール時に自動的に含まれます。ただし、リモート管理機能だけは、エージェントのインストールから削除するよう選択できます。
- ◆ **ネットワーククライアントが不要** : Adaptive Agent では、コンテンツ (アプリケーションなど) をプライマリサーバから取得するためにネットワーククライアント (Novell Client または Microsoft Client) は必要ありません。Adaptive Agent は、HTTP と Web サービス要求を使用してコンテンツを取得します。

注 : Novell クライアントの最新バージョンを管理対象デバイスにインストールしてから、[ユーザのホームディレクトリにユーザプロファイルを保存] を有効にしたダイナミックローカルユーザポリシーまたはローミングプロファイルポリシーをデバイスに適用する必要があります。Novell Client の最新バージョンを入手するには、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/index.jsp\)](http://download.novell.com/index.jsp) を参照してください。

- ◆ **統合インタフェース** : 別個のクライアントプログラム (Workstation Manager、Remote Control など) が代わって、ZENworks Icon という共通のインタフェースが用意されました。ZENworks Icon は、デスクトップ下部の通知領域に表示されます。NAL Window と NAL Explorer ビューはそのまま使用可能です。
- ◆ **環境設定** Adaptive Agent の動作は、Launcher 環境設定だけでなく、環境設定とポリシー設定 (ZENworks Explorer 設定ポリシー) の組み合わせによって制御されるようになりました。これによって、特定の設定を受信するデバイスをより柔軟に決定できます。
- ◆ **インベントリのみモジュール** : ワークステーションが Adaptive Agent インストールの要件を満たしていない場合でも (「[管理対象デバイスの要件](#)」(『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』)を参照)、インベントリのみモジュールをインストールすることによってこれらのワークステーションからインベントリ情報を受け取ることができます。詳細については、「[インベントリのみモジュールの展開](#)」(『ZENworks 11 SP2 検出、展開、リタイアリファレンス』)を参照してください。

詳細については、「ZENworks Adaptive Agent の展開」(『ZENworks 11 SP2 検出、展開、およびリタイアリファレンス』)を参照してください。

Middle Tier Server

Configuration Management には Middle Tier Server は存在しません。代わりに、ZENworks Adaptive Agent は Web サービスと HTTP 要求を通じてプライマリサーバと直接通信します。

2.2 システム管理

Configuration Management には、次のような複数の ZENworks 管理方法が用意されています。

- ◆ **ZENworks コントロールセンター**：これは、Configuration Management のメイン管理インタフェースです。詳細については、「ZENworks コントロールセンター」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。
- ◆ **コマンドラインユーティリティ**：zman および zac コマンドラインユーティリティを使用して、Configuration Management を管理できます。詳細については、『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』を参照してください。
- ◆ **エラーおよびメッセージ**：従来のエラーメッセージとメッセージログに代わり、集中型のメッセージログ機能を使用するようになりました。詳細については、「メッセージログ」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)と、「システムメッセージの参照」(『ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート』)を参照してください。
- ◆ **ソフトウェアのアップデート**：ZENworks ソフトウェアのアップデートの処理は、システム更新機能によって Configuration Management に自動化されるようになりました。詳細については、「ZENworks システムアップデート」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。
- ◆ **レポート機能**：Configuration Management には、次のようにまったく新しいレポート機能があります。
 - ◆ ZENworks インフラストラクチャレポートは BusinessObjects Enterprise XI を使用して実行されます。詳細については、『ZENworks 11 SP2 システムレポートングリファレンス』を参照してください。
 - ◆ インベントリしたアセットに関するレポートは、アセットインベントリのレポート機能を使用して実行されます。詳細については、『ZENworks 11 SP2 アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

2.3 ワークステーション

ポリシーを使用して eDirectory にインポートする従来のワークステーション管理は、Configuration Management では管理対象デバイスに置き換わっています。

Configuration Management 内のデバイスには、プライマリサーバ、管理対象デバイス(プライマリサーバとワークステーション)、およびインベントリのみデバイスが含まれます。詳細については、「システム要件」(『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』)を参照してください。

ワークステーションの管理は、次の方法で実行されます。

- ◆ ワークステーションは、新しいディスクバリエーションおよび展開機能を使用して管理ゾーンにインポートされます。デバイスはネットワーク上で検出され、管理ゾーンに登録されて、ソフトウェアが展開されます。詳細については、『ZENworks 11 SP2 検出、展開、およびリタイアリファレンス』を参照してください。

デバイスを手動でインポートする場合、.csv ファイルを使用できます。詳細については、「[CSV ファイルからのデバイスのインポート](#)」(『[ZENworks 11 SP2 検出、展開、およびリタイアリファレンス](#)』)を参照してください。

サーバは、**Configuration Management** をインストールしたときに、管理ゾーンのメンバーになります。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 インストールガイド](#)』を参照してください。

- ◆ ワークステーションのインポートとポリシーに代わり、登録ルールとキーが使用されるようになりました。詳細については、「[登録キーおよび登録ルールの作成](#)」(『[ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート](#)』)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターでデバイスのステータスを判断できます。詳細については、「[ZENworks アイコン](#)」(『[ZENworks 11 SP2 ソフトウェア配布リファレンス](#)』)を参照してください。
- ◆ Asset Management は ZENworks 11 SP2 で動作するよう設定されています。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 Asset Management リファレンス](#)』を参照してください。
- ◆ ポリシーの多くは従来のZENworksと**Configuration Management**で基本的に同じですが、使用されなくなったものや、管理ゾーン環境設定に移動されたものもあります。また、新しいポリシーが追加されています。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 Configuration Policies リファレンス](#)』を参照してください。

2.4 インベントリ

ワークステーションインベントリに代わってアセットインベントリが使用されます。これはまったく新しい機能で、**Configuration Management** のコンテンツモデルに基づいています。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 アセットインベントリリファレンス](#)』を参照してください。

管理ゾーン内でプライマリサーバを階層的に整理して、すべてのデータベース情報が、ZENworks データベースをホストする 1 つのプライマリサーバに効率的にロールアウトされるようにすることができます。ただし、データベースは、ゾーン内のプライマリサーバではないサーバ上のみ外部的に存在できます。詳細については、「[サーバの階層](#)」(『[ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス](#)』)を参照してください。

2.5 イメージング

Configuration Management では、従来のポリシーと eDirectory イメージングオブジェクトではなく、バンドルを使用して自動イメージングが実行されます。ただし、ZENworks Imaging エンジンほぼ同じで、イメージのファイルタイプも .zmg のままです。

イメージングソフトウェアは多少強化されていますが、本質的には同じです。単に、自動イメージングの実行方法が異なるだけです。手動イメージングも同様ですが、強化されています。

イメージファイルの基本リポジトリはハードコードされていますが、サブフォルダを作成してイメージを整理できます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP2 Preboot Services およびイメージングリファレンス](#)』を参照してください。

2.6 リモート管理

この機能は、VNC (Virtual Network Computing) の使用を含め、強化されています。詳細については、『ZENworks 11 SP2 Remote Management リファレンス』を参照してください。

2.7 アプリケーション管理

ZENworks 11 Configuration Management SP2 では、従来の ZENworks Application Management 機能に代わって新しいソフトウェア配布機能追加されました。

- ◆ **バンドル**：バンドルとはファイルと情報のパッケージで、アプリケーションオブジェクトとそのファイルに似ていますが、それを大きく上回るパワーと柔軟性を備えています。バンドルウィザードを使用すると、バンドルを作成して、バンドルに関連付けられたアクションを設定し、デバイスまたはユーザにバンドルを割り当てることができます。4タイプのバンドル(Linux、Linux 依存、プレブート、Windows)があります。詳細については、『ZENworks 11 SP2 ソフトウェア配布リファレンス』を参照してください。
- ◆ **アクションおよびアクションセット** バンドルは、そのコンテンツとともに、実行するアクションで構成されています。すべてのアクションは、インストール、起動、検証、アンインストール、終了、およびプレブートという6つのカテゴリに分かれており、アクションセットと呼ばれます。アクションはバンドルの作成時に特定でき、後から ZENworks コントロールセンターでアクションを追加または削除することもできます。詳細については、「アクション」(『ZENworks 11 SP2 ソフトウェア配布リファレンス』)を参照してください。
- ◆ **コンテンツ**：アプリケーションとファイル、およびポリシーファイルをコンテンツと呼びます。コンテンツは、プライマリサーバ上にあり、コンテンツリポジトリと呼ばれるディレクトリ構造に保存されます。プライマリサーバと ZENworks Adaptive Agent (管理対象デバイス上で実行) は、標準の Web プロトコル経由で通信してコンテンツへのアクセスを提供します。システムを異なる設定にしていない限り、コンテンツはプライマリサーバ間で自動的にレプリケートされ、すべてのプライマリサーバから使用できるようになっています。詳細については、「コンテンツ配信」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。
- ◆ **キャッシュ**：各管理対象デバイスは引き続きキャッシュディレクトリを使用します。ただし、キャッシュの場所が `drive_root\ncache` から `zenworks_home\cache` へ移動されています。バンドルはすべてキャッシュディレクトリにコピーされてからインストールされます。デフォルトでは、このコピーは、デバイス上でバンドルを初めて起動したときに実行されます。
- ◆ **強制キャッシュ**：配布スケジュールを使用して強制的にバンドルをキャッシュして、ユーザがバンドルを起動したらすぐにインストールできるようにすることができます。スケジュールを使用することで、バンドルの配布を直ちに開始したり、配布を後まで遅らせたりすることができます。
- ◆ **強制実行**：起動スケジュールを使用して、アプリケーションを強制実行できます。たとえば、アプリケーションを即座に実行したり、デバイス更新時に実行したりできます。詳細については、「バンドルの起動」(『ZENworks 11 SP2 ソフトウェア配布リファレンス』)を参照してください。

- ◆ **配布ポイント** : 別のプライマリサーバを作成しなくてもデバイスのグループからコンテンツに容易にアクセスできるようにするために、任意の管理対象デバイス上にコンテンツ配布ポイントを作成することができます。配布ポイントは低速な WAN 構成の場合に便利です。詳細については、「[サテライトの役割について](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。
- ◆ **従属関係** : バンドルに対して特定のタイプのアクションを選択した際に、従属関係が自動的に作成されるようになりました。詳細については、「[コンテンツや別のバンドルへの従属性のあるバンドルの作成](#)」(『ZENworks 11 SP2 ソフトウェア配布リファレンス』)を参照してください。
- ◆ **近接および負荷分散** : サイトリスト (近接) およびソースリスト (作業負荷) に代わり、最近接サーバルールという機能が採用されました。これは管理者が作成するルールで、管理対象デバイスがコンテンツと環境設定情報の受け取り元のプライマリサーバをポイントするようにします。詳細については、「[Location Awareness](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

2.8 その他の機能

Configuration Management のエディション (Standard、Advanced、または Enterprise) によっては、次のその他のソフトウェア機能が Configuration Management に付属しています。

- ◆ **Patch Management**: 継続的にパッチを自動的に適用して、脆弱性やコンプライアンスに関する問題を最小限に抑えることができます。詳細については、『ZENworks 11 SP2 Patch Management リファレンス』を参照してください。

Standard Edition では、Patch Management は 60 日間有効な評価専用ソフトウェアとして提供されています。

- ◆ **Asset Management**: ソフトウェアのライセンスコンプライアンスの監視、ソフトウェアの使用状況のトラッキング、契約書の管理、およびライセンスの管理を継続的に行うことができます。詳細については、『ZENworks 11 SP2 Asset Management リファレンス』を参照してください。

Standard Edition および Advanced Edition では、Asset Management は 60 日間有効な評価専用ソフトウェアとして提供されています。

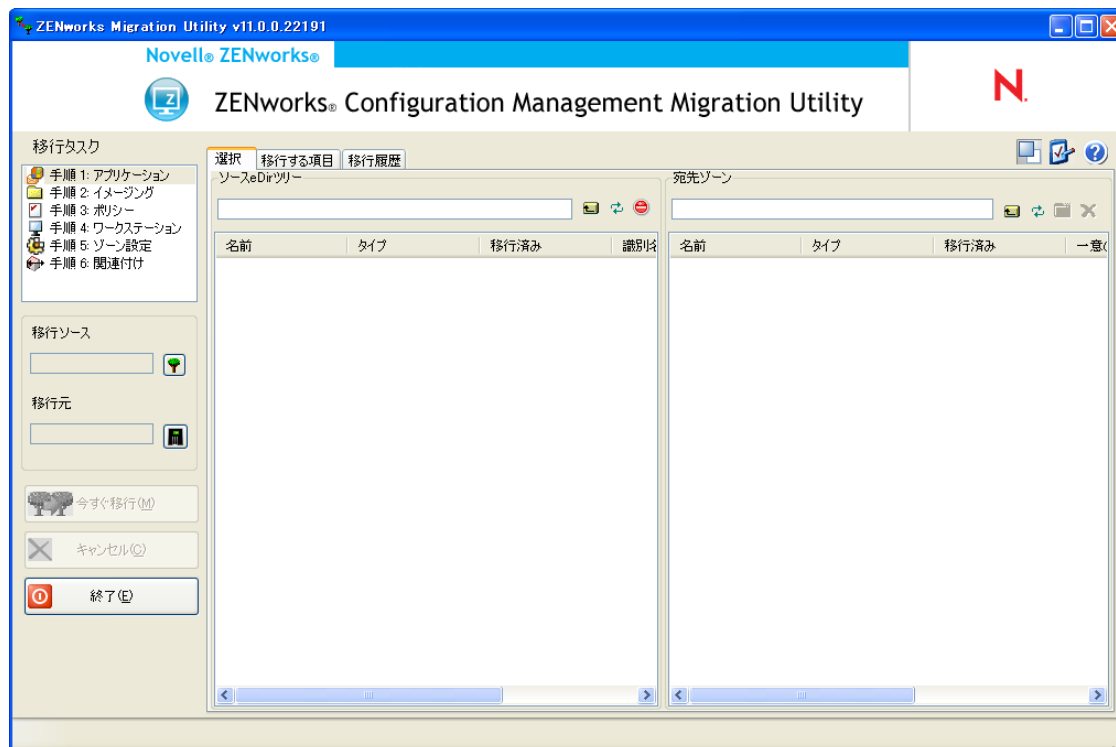
- ◆ **AdminStudio**: アプリケーションやパッチをパッケージ化、テスト、配布、および管理する方法を引き続き標準化できます。詳細については、『AdminStudio インストールガイド』を参照してください。マニュアルは、[Novell マニュアルサイト \(http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks112\)](http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks112) で入手できます。

マイグレーションユーティリティの 理解

3

ZENworks Configuration Migration Utility は、マイグレーションをモデル化して実行できるマイグレーション画面で構成されます。

図 3-1 ZENworks Configuration Management Migration Utility



マイグレーションユーティリティの構成と機能の詳細については、次のセクションを確認してください。

- ◆ 26 ページのセクション 3.1 「マイグレーションタスク」
- ◆ 26 ページのセクション 3.2 「マイグレーション元 / マイグレーション先」
- ◆ 26 ページのセクション 3.3 「[今すぐ移行] ボタン」
- ◆ 27 ページのセクション 3.4 「[キャンセル] ボタン」
- ◆ 27 ページのセクション 3.5 「終了」
- ◆ 27 ページのセクション 3.6 「タブの選択」
- ◆ 29 ページのセクション 3.7 「[マイグレートする項目] タブ」
- ◆ 30 ページのセクション 3.8 「[マイグレーション履歴] タブ」
- ◆ 30 ページのセクション 3.9 「オプションアイコン」
- ◆ 31 ページのセクション 3.10 「プロセス全体」

3.1 マイグレーションタスク



移行できる Novell eDirectory データにはいくつかのタイプがあります。1つまたは複数のセッションですべてのタイプをモデル化できます (モデル化情報は保存されるため)。ただし、一度に移行できるのは1つのタイプだけです。[マイグレーションタスク] フィールドで選択したタイプは、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

[マイグレーションタスク] フィールドに表示されるオプションは、[選択] タブに何が表示されるかを決定するフィルタです。マイグレーションタスクを選択すると、[選択] タブの2つのパネル ([ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン]) にあるフィールド (およびデータ) が選択内容に応じて変わります。たとえば、[ステップ1: アプリケーション] を選択する場合は、アプリケーションに適合するパス、フィールド、およびデータのみが両方のパネルに表示されます。[ソース eDir ツリー] パネルには、eDirectory ツリー内の項目が表示されます。[宛先ゾーン] パネルには、現在 ZENworks データベースに存在する項目が表示され、ZENworks コントロールセンターで表示可能です。

[マイグレーションタスク] オプションの数は、アプリケーションと関連付けオブジェクトが Configuration Management での関連付けの再作成のためにすでに存在する必要があるアプリケーションなど、考えられる従属関係の理由から、提案されたマイグレーションシーケンスを表します。したがって、まずアプリケーションを移行して、関連付けを移行します。ただし、タイプのサブセットを含め、eDirectory データはいかなる順序でも移行できます。これは、さまざまな部署のアプリケーションを別々に移行するなど、増加するマイグレーションで便利です。

また、[宛先ゾーン] パネルからどの項目でも削除できます。この場合、項目は ZENworks データベースから削除されるため、ZENworks コントロールセンターでも表示できなくなります。

3.2 マイグレーション元 / マイグレーション先

[マイグレーション元] と [マイグレーション先] フィールドには、現在の選択肢が表示されます。これらのフィールドが空の場合、またはマイグレーション元またはマイグレーション先を変更する場合は、 または  をクリックして、[eDir ログイン] または [ゾーンログイン] ダイアログボックスを表示して、エンティティを認証します。

3.3 [今すぐ移行] ボタン

マイグレーションタイプを選択して、移行する項目を選択したら ([ソース eDir ツリー] パネルを [宛先ゾーン] パネルにコピーしてマイグレーションタイプのモデル化を完了)、このボタンをクリックしてマイグレーションを実行します。[マイグレートする項目] タブにリストされている項目すべてが、一度に移行されます。移行されるまでは、淡色表示されたアイコンで表示されます。

サイトリスト上アプリケーションをドラッグしたとき、その複製がすでにキューに入っている場合は、どちらを移行するか決定して重複を解決するように求めるメッセージが表示されます。項目を右クリックして、移行する項目を決定するのに役立つ情報について、[属性を表示] を選択できます。

3.4 [キャンセル] ボタン

このボタンは、マイグレーション中にいつでもクリックでき、プロセスを停止できます。すでに移行された項目は移行されたままになります。まだ移行されていない項目は続行され、淡色表示されたアイコンとテキストで [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

3.5 終了

Migration Utility を終了します。実行したモデル化は、今後のセッション用に保存されません。

保存済みマイグレーション情報は、マイグレーション先とマイグレーション元のペアを基準とします。したがって、[宛先ゾーン] パネルに表示される保存済みモデル化情報は、選択するマイグレーション先とマイグレーション元のペアによって異なります。保存済みモデル化ファイルは、サブディレクトリ (ユーティリティの実行元である場所) で保持されます。これは、マイグレーション先とマイグレーション元のペアを基準とします。複数の eDirectory ツリーから 1 つの管理ゾーンへのマイグレーションをモデル化する場合は、これに留意してください。

3.6 タブの選択

このタブには、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルが表示されます。どちらのパネルでも、項目を移行した後は、移行済みエントリのテキストの色は暗い灰青色になります。これは、ユーティリティを後から実行した場合にも、移行した項目と移行していない項目を表示するのに便利です。エラーのため、エントリが移行されない場合は、アイコンは淡色表示のままになります。

- [27 ページのセクション 3.6.1 「ソース eDir ツリー」](#)
- [28 ページのセクション 3.6.2 「宛先ゾーン」](#)

3.6.1 ソース eDir ツリー

eDirectory ツリーにログインすると、[ソース eDir ツリー] パネルには適切な情報が入力され、ツリーのルートで開始されます。たとえば、[ステップ1: アプリケーション] を選択する場合は、移動して、アプリケーションオブジェクトのみがツリーに表示されます。




[ソース eDir ツリー] パネルに一覧表示されている移行する項目を選択するには、その項目を選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。

重要: オブジェクトの選択、ドラッグ、および移行は、eDirectory ツリーには何も影響しません。マイグレーションは、読み取りとコピーのみの操作です。eDirectory ツリーは変更されません。そのため、eDirectory ツリーに読み込み専用ユーザとしてログインしてマイグレーションを実行することもできます。

[ソース eDir ツリー] フィールドには、ツリー内で現在選択済みのコンテキストのフルパスが表示されます。

次のアイコンをクリックして、ツリーに移動できます。

表 3-1 ソース eDir ツリーアイコン

	1 階層上へ移動 ：現在のコンテキストから 1 階層上へフォーカスを移動します。
	更新 ：ビューを更新します。たとえば、ツリーを最初に認証する場合は、現在のツリーの状態を受信します。その後ツリーに変更を加えた場合は、[更新] をクリックして、Migration Utility でマイグレーション対象の変更内容をキャプチャします。
	ソース edir ツリー内のオブジェクトの一覧表示を停止 ：[ソース eDir ツリー] フィールドでオブジェクトの一覧表示を停止します。

リスト内の項目を右クリックする場合は、次の 2 つのオプションがあります。

- ◆ **属性を表示**：[一般属性] ダイアログボックスに選択済みオブジェクトの属性を表示します。これは、トラブルシューティングとサポートコールに役立ちます。
- ◆ **マイグレーションキューに追加**：項目を [Destination Zone(宛先ゾーン)] パネルと [マイグレートする項目] タブのマイグレーション用にキューに入れられた項目のリストにコピーします。

これらのオプションは、選択済み項目にもパネル全体にも適用できるので、特定の項目にのみ適用できるオプションについては、項目を右クリックします。すべての項目に適用できるオプションについては、パネルのどこかを右クリックします。

ワークステーションオブジェクトとアプリケーションオブジェクトのように、含まれるオブジェクトのタイプが異なるマイグレーションのコンテナを選択する場合は、アクティブな [マイグレーションタスク] 選択に関連するオブジェクトのみが [宛先ゾーン] パネルにコピーされます。

以前に [宛先ゾーン] のキューに入れられた項目をドラッグして、まだ移行されていない場合は、項目がすでにそこにあるため、アクションは発生しません。



3.6.2 宛先ゾーン

[宛先ゾーン] パネルには、移行する項目は淡色表示アイコンで表示され、すでに移行された項目または元々 ZENworks コントロールセンターで作成された項目は色付きアイコンで表示されます。

[宛先ゾーン] フィールドには、管理ゾーン内の移行済みオブジェクトの選択済み移行先のフルパスが表示されます。デフォルトの場所が表示されます。

次のアイコンをクリックして、ゾーンの移動または選択済み項目の変更ができます。

表 3-2 [宛先ゾーン] アイコン

	1 階層上へ移動 ：現在のフォルダから 1 階層上へフォーカスを移動します。
	更新 ：ビューを更新します。たとえば、ゾーンを最初に認証する場合は、現在のゾーンの状態を受信します。その後ゾーンで変更を加えた場合は、[更新] をクリックして、Migration Utility で変更内容を更新します。



新規フォルダの作成: 新しいフォルダを追加することによって、ZENworks コントロールセンターに表示される Configuration Management フォルダ構造を管理ニーズに合わせて変更することができます。たとえば、/bundles~ の下にフォルダ (Files など) を追加すると、File フォルダは ZENworks コントロールセンターの [バンドル] の下に表示されます。このフォルダには、そこにコピーした eDirectory オブジェクト用に作成されたすべてのバンドルが含まれます。

モデル化されたフォルダは、移行するまでは ZENworks コントロールセンターに追加されません。ただし、空のフォルダをモデル化して、[今すぐ移行] をクリックして Configuration Management に追加することができます。これは、オブジェクトを移行する前にフォルダ構造を設定する場合に役立ちます。



選択したオブジェクトを削除: 淡色表示アイコンのある項目をリストから削除しますが、eDirectory または ZENworks データベースからは削除されません。項目のアイコンに色が付いている場合は、すでに移行済みの項目か、元々 ZENworks コントロールセンターで作成された項目かのどちらかです。[選択したオブジェクトを削除] アイコンを選択すると、項目は ZENworks データベースから削除され、ZENworks コントロールセンターで表示できなくなります。

重要: 移行済み項目と元々 ZENworks コントロールセンターで作成された項目が両方とも表示されるため、色付きアイコンのある項目を削除するよう選択する場合は、この点に注意してください。

リストの項目を右クリックすると、次のオプションが表示されます。

- ◆ **選択した項目を削除**: 選択した項目をこのビューのリストから削除します。ただし、項目がまだ移行されていない場合は、選択した項目はこのビューと [マイグレートする項目] タブの両方から削除されます。
- ◆ **新規フォルダ**: 新規フォルダを現在レベルに挿入できます。このフォルダは、マイグレーションを実行するまでは ZENworks コントロールセンターに作成されません。移行するフォルダ構造を作成する場合は、フォルダ内に項目が置かれます。
- ◆ **ゾーン設定を表示**: 選択されたオブジェクトの ZENworks 管理ゾーン設定を表示します。
- ◆ **属性を表示**: [一般属性] ダイアログボックスに選択済みオブジェクトの属性を表示します。これは、トラブルシューティングとサポートコールに役立ちます。

これらのオプションは、選択済み項目にもパネル全体にも適用できるので、特定の項目にのみ適用できるオプションについては、項目を右クリックします。すべての項目に適用できるオプションについては、パネルのどこかを右クリックします。

[一意な識別子] カラムには、同じ名前前の複数オブジェクトを区別する方法が用意されています。識別子には移行元のフルコンテキストがあるからです。ZENworks Migration Utility は、追加される項目が既存の項目と重複していないかを自動的にチェックして、重複を防ぎます。ただしこれは、[名前] カラム内の項目の名前でなく、一意な識別子に適用されます。

3.7 [マイグレートする項目] タブ

このタブには、移行される項目が表示されます。これは、マイグレーションが進行中の間のアクティブなビューです。

最上部のパネルの [ステップ] カラムには、項目が移行されるのに応じて、マイグレーションの進行状況が表示されます。問題が発生した場合は、[ステップ] に示されます。

[マイグレーションステータス] パネルには、データが移行されるように、書き込み中のマイグレーションログが表示されます。またこれは、項目のマイグレーション後に作成された、マイグレーションログファイルのコンテンツです。ログファイルは、[ステップ] カラムにある [ログ表示] ボタンをクリックすると、アクセスできます。また、[マイグレーション履歴] タブにある [マイグレーションログ] カラムにある同じオプションからアクセスできます。

リストの項目またはビュー内のいずれかの場所を右クリックすると、次の3つのオプションが表示されます。

- ◆ **選択した項目を削除**：このビュー内および [選択] タブの [宛先ゾーン] の下にあるリストで、移行する項目のリストから選択した項目を削除します。
- ◆ **すべてを削除**：マイグレーションリストからリスト済み項目すべてを削除します。選択済みかどうかに関わらず、[選択] タブにある [宛先ゾーン] の下のリスト内のすべての項目が含まれます。
- ◆ **正常に削除**：[今すぐ移行] をクリックする前にリスト内にもともとあったすべての項目はリスト内に残り、マイグレーションステータスが表示されます。このオプションによって、正常に移行済みの項目すべてを削除でき、移行に失敗した項目の確認と処理ができます。

これらのオプションは、選択済み項目にもパネル全体にも適用できるので、特定の項目にのみ適用できるオプションについては、項目を右クリックします。すべての項目に適用できるオプションについては、パネルのどこかを右クリックします。


3.8 [マイグレーション履歴] タブ

このタブには、移行した項目すべてが、[マイグレーションタスク] パネルで選択したマイグレーションタイプに従って、表示されます。

リスト内またはビュー内のいずれかの場所で項目を右クリックすると、次のオプションが表示されます。

- ◆ **選択した項目を削除**：移行された項目のリストから選択した項目を削除しますが、移行されたという事実は変更されません。これはリストを短くする場合に役立ちます。
- ◆ **すべての項目を削除**：マイグレーションリストから一覧表示された項目をすべて削除しますが、移行されたという事実は変更されません。これはリストを消去する場合に役立ちます。
- ◆ **更新**：リストを更新します。
- ◆ **マイグレーションログ**：マイグレーションデータは、RTF ログファイルにログされます。マイグレーションログファイルは、行の任意の場所をダブルクリックすることによって常に利用可能です。また、ZENworks Migration Utility 実行ファイルが存在する \log ディレクトリでも、このログファイルにアクセス可能です。ただし、ファイル名には GUID が使用されるため、通常、移行ログファイルにアクセスするには管理ユーティリティが最適な方法です。

3.9 オプションアイコン

 アイコンは、[オプション] ダイアログボックスにアクセスします。ここでは、移行中の eDirectory データのタイプに関連するグローバルオプションを指定できます。タイプによっては、グローバルオプションがないものもあります。マイグレーションオプションは、マイグレーション中に強制され、モデル化中の情報表示に影響することがあります。

3.10 プロセス全体

このフィールドは、画面の一番下にあり、マイグレーションの進行を棒グラフで示します。[マイグレートする項目] タブに、移行中の個別の項目の進行バーも表示できます。

ZENworks Configuration Management へのマイグレーションの計画

4

Novell ZENworks Configuration Management では、従来の ZENworks Novell eDirectory オブジェクトと属性を ZENworks Configuration Management データベースへ移行できる ZENworks Migration Utility が提供されています。Configuration Management では、従来のバージョンの ZENworks とは異なるアーキテクチャを使用するため、Configuration Management にアップグレードするには、古い ZENworks データを移行する方法しかありません。

マイグレーションユーティリティを使用すると、バッチ内の eDirectory オブジェクトを増分で移行できます。数百のオブジェクトを同時にキューに入れて命グレイとすることができます。ユーティリティは、モデリング、オブジェクト選択、簡易生属性表示、マイグレーション、およびエラーレポートを提供します。

AdminStudio Standard Edition と Migration Utility は同じデバイスにインストールできません。ただし、AdminStudio Standard Edition と Migration Utility を同じ管理ゾーン内の別々のデバイスにインストールすることはできます。

次のセクションでは、Configuration Management への移行に関する概念について説明します。

- ◆ [33 ページのセクション 4.1 「マイグレーション候補」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 4.2 「ZENworks Migration Utility のダウンロードおよびインストール」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 4.3 「ZENworks Migration Utility の機能」](#)
- ◆ [36 ページのセクション 4.4 「マイグレーションの計画」](#)

4.1 マイグレーション候補

以下の ZENworks 製品は、ZENworks 11 Configuration Management SP2 に移行できます。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1
- ◆ ZENworks Desktop Management 6.5
- ◆ ZENworks 7.x Desktop Management

その他の ZENworks 製品のマイグレーションは将来のバージョンの Configuration Management で追加される予定です。

4.2 ZENworks Migration Utility のダウンロードおよびインストール

Migration Utility は、以前に AdminStudio をインストールしていないデバイスにインストールする必要があります。すでに AdminStudio がインストールされたデバイスに Migration Utility をインストールすると、AOT アプリケーションのマイグレーションに失敗します。この問題の詳細については、トラブルシューティングシナリオ [107 ページ](#)の「[AOT アプリケーションの移行が不可能](#)」を参照してください。

次のステップを実行して、ユーティリティを実行する Windows デバイスに ZENworks Migration Utility 実行可能ファイルをダウンロードしてインストールします。

- 1 (条件付き) 以前のバージョンのユーティリティがすでにデバイスにインストールされている場合は、最新バージョンをインストールする前にこれをアンインストールしてください。
- 2 Web ブラウザを使用して、次のいずれかの場所の適当な場所に ZENworks Configuration Management Migration Utility をダウンロードできます。
 - [ZENworks ダウンロード] ページ: http://zenworks_primary_server_id/zenworks-setup/?pageId=tools にアクセスし、ZENmigration.exe をクリックします。Novell のダウンロードサイトに自動的にリダイレクトされ、そこからユーティリティをダウンロードできます。
 - Novell ダウンロードサイト: <http://download.novell.com/> にアクセスして、ZENworks Configuration Management Migration Utility を検索してダウンロードします。

ZENworks Migration Utility はワークファイルをローカルに保存するので、このユーティリティを同じワークステーションから常に実行するように計画する必要があります。これによって、計画とマイグレーション中の両方で使用できるマイグレーション履歴情報が提供されます。これらのワークファイルは、ユーティリティのインストール先である他のワークステーションには転送できません。複数のワークステーションを使用してマイグレーションを実行する場合は、分離済み履歴ができません。

重要: マイグレーションユーティリティをプライマリサーバから実行することはお勧めしません。マイグレーションユーティリティのプロセスは CPU に集中しているため、サーバが著しく遅くなることがあります。

また、Macrovision による Novell のライセンスによって、1つの管理ゾーンに対して、2つ以上のデバイスにマイグレーションユーティリティをインストールすることは禁止されています。

したがって、サポートされている管理ワークステーションにマイグレーションユーティリティをインストールします。

- 3 ZENmigration.exe を実行して、ワークステーションにインストールします。

4.3 ZENworks Migration Utility の機能

ZENworks Migration Utility には Configuration Management が提供されています。[47 ページ](#)の[ステップ 5](#)を参照([45 ページ](#)の[セクション 5.1](#)「[前提条件](#)」)。これを、プライマリサーバに常駐する実行可能ファイルからコピーして、ワークステーションにインストールします。ユーティリティは、マイグレーションをモデル化して実行できるマイグレーション画面で構成されます。

次のセクションでは、移行されるものとされないものを説明します。

- ◆ 35 ページのセクション 4.3.1 「移行済み」
- ◆ 35 ページのセクション 4.3.2 「移行なし」
- ◆ 35 ページのセクション 4.3.3 「その他のソフトウェア」

4.3.1 移行済み

ZENworks Migration Utility は、次の機能があります。

- ◆ 実行する前にマイグレーションをモデル化できます。
- ◆ 従来の ZENworks 関連付けから作成された割り当ての固有のビューを提供します。
- ◆ eDirectory オブジェクトと属性と関連付けを ZENworks データベースにコピーし、処理中に eDirectory はそのままの状態に残します。
- ◆ サイトに一覧表示されているアプリケーションから、重複を解決するようメッセージが表示されます。
- ◆ Configuration Management に存在しない、従来の ZENworks システムの eDirectory オブジェクトの非移行属性のステータスログを提供します。
- ◆ Novell Application Launcher (NAL) アプリケーションを Configuration Management バンドルに変換します。

ストリーム (ファイル) が関連付けられている MSI および AOT のアプリケーションは、ZENworks Migration Utility に付属する AdminStudio Repackager を使用して MSI に移行されます。

4.3.2 移行なし

ZENworks Migration Utility では、次の内容は移行されません。

- ◆ ユーザオブジェクト：移行されません。代わりに、ZENworks コントロールセンターで、単にユーザソースをポイントするだけです。したがって、eDirectory または Active Directory でユーザに変更を加えると、ただちに ZENworks コントロールセンターで認識されます。
- ◆ インベントリデータ：従来のインベントリデータおよび関連する eDirectory 属性は、このユーティリティでは移行されません。ZENworks Asset Management インベントリデータの移行方法については、35 ページのセクション 4.3.3 「その他のソフトウェア」を参照してください。

移行されないものと、マイグレーション中に変更されるものの詳細については、85 ページの付録 A 「マイグレーションデータ」を参照してください。

4.3.3 その他のソフトウェア

その他の方法によって更新または移行されるものは、次のとおりです。

- ◆ インベントリデータ：ZENworks Asset Management Migration Utility を使用して、インベントリ履歴などの従来のインベントリデータを、ZENworks 7 から ZENworks Configuration Management に移行できます。このユーティリティにアクセスして実行するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザで、次の URL に移動します。

http://zenworks_primary_server_id/zenworks-setup/?pageId=tools

また、ZAMmigration.exe を一時的な場所にダウンロードします。

2. ZAMmigration.exe を実行して、ワークステーションにインストールします。
 3. ユーティリティを、サポートされている Windows デバイス上で実行するには、
[スタート] > [すべてのプログラム] > [ZENworks] > [ZENworks Asset Management Migration Utility] の順にクリックします。
- ◆ **PatchLink:** PatchLink Update は、ZENworks Configuration Management のインストールの一部として、最新のパッチが自動的にインストールされます。
 - ◆ **AdminStudio:** AdminStudio ZENworks Edition は、Novell ZENworks Configuration Management CD に収録されています。これは、オプションでインストールします。Novell Application Launcher アプリケーションを移行するために ZENworks Migration Utility で必要な AdminStudio の一部は、マイグレーションユーティリティとともに自動的にインストールされます。

4.4 マイグレーションの計画

従来の ZENworks を Configuration Management にアップグレードするには、従来の ZENworks システムから移行する eDirectory オブジェクトと関連付けを決定しなければなりません。すべてを移行したり、eDirectory で整理されている方法と同じ方法で整理したりする必要はありません。

マイグレーションを計画する場合は、次のことを考慮します。

- ◆ 36 ページのセクション 4.4.1 「ZENworks システムの共存」
- ◆ 37 ページのセクション 4.4.2 「LDAP 認証」
- ◆ 38 ページのセクション 4.4.3 「PXE デバイスとサーバ参照リスト」
- ◆ 39 ページのセクション 4.4.4 「インクリメンタルマイグレーション」
- ◆ 39 ページのセクション 4.4.5 「マイグレーション順序」
- ◆ 40 ページのセクション 4.4.6 「管理ゾーンの設定」
- ◆ 40 ページのセクション 4.4.7 「ワークステーションの移行」
- ◆ 41 ページのセクション 4.4.8 「ユーザの識別」
- ◆ 41 ページのセクション 4.4.9 「Configuration Management 内のフォルダ使用」
- ◆ 42 ページのセクション 4.4.10 「マイグレーションモデリング」
- ◆ 43 ページのセクション 4.4.11 「最新情報」

4.4.1 ZENworks システムの共存

Configuration Management を環境に導入する場合は、次のことが発生します。

- ◆ **インストール:** Configuration は、Configuration Management の管理ゾーンにあるプライマリサーバにインストールされます。このサーバは、従来の ZENworks ソフトウェアを実行することはできません。

インストールによって、管理ゾーンと ZENworks データベースが設定されます。別のサーバ上にある外部データベースを使用しない場合は、最初のインストール済みプライマリサーバが、データベースをホストします。

- ◆ **マイグレーション** : eDirectory データは、読み込み専用アクセスを使用して、プライマリサーバ上の ZENworks データベースに移行されます。

Configuration Management へのマイグレーションは、eDirectory データの読み取りによる、ZENworks データベース内の類似オブジェクト、属性、および割り当ての作成から構成されます。ユーザは、Configuration Management に移行されません。

Configuration Management では、移行されるユーザ関連付けがある場合は、eDirectory をユーザソースとして使用するだけです。

ユーザ割り当てを移行する前に、ZENworks コントロールセンターでユーザソースを作成する必要があります。

- ◆ **管理対象デバイス** : Configuration Management によって管理される各デバイスに、ZENworks Adaptive Agent がインストールされます。これらのデバイスは、管理ゾーン内にあるワークステーションやプライマリサーバなどです。

Adaptive エージェントをインストールすると、従来の ZENworks Agent ソフトウェアも管理対象デバイスから削除されるので、管理対象デバイスの競合は発生しません。

特定の考慮は、共存に影響を与えます。

- ◆ Configuration Management ソフトウェアは、従来の ZENworks ソフトウェアと同じサーバでは実行できません。
- ◆ Configuration Management は、eDirectory ではなく、独自のデータベースを使用します。
- ◆ 管理対象デバイス上の従来の ZENworks エージェントは Adaptive Agent に置き換わりません。

このため、Configuration Management と従来の ZENworks システムは、競合することなく、現在の環境で同時に実行できます。Configuration Management と従来の ZENworks システムは共存しますが、相互運用可能ではありません。それぞれのエージェントが実行されているデバイスごとに、別々の管理ソフトウェアとして存在します。

4.4.2 LDAP 認証

ZENworks Migration Utility は、ソース eDirectory ツリー (LDAP を使用) と宛先 ZENworks 管理ゾーン (Web サービスを使用) の両方に対して認証し、どちらもセキュリティには TCP/IP を介した SSL を使用します。eDirectory ツリーのデフォルトである LDAP を有効にする必要があります。

eDirectory ログインでは、eDirectory を読み取るための十分な権限を持つ完全に区別されたユーザ名を指定する必要があります。マイグレーションプロセスは eDirectory を読み取るだけなので、eDirectory への書き込みは必要ありません。イメージを移行している場合は、マイグレーションユーザは .zmg イメージングファイルの読み取り権限も持っている必要があります。

eDirectory から情報を読み取る場合の LDAP SSL のデフォルトポートは 636 です。デフォルトの非 LDAP SSL ポートは 389 です。

マイグレーションユーティリティを実行しているデバイス上で Novell Client32 が実行されていなくても移行は可能ですが、NetWare ボリューム上のファイルにアクセスするには Client32 が必要になる場合があります。

ZENworks 管理ゾーンへの認証は、Configuration Management をインストールしたときに確立した管理者ログイン名およびパスワードを使用して実行されます。インストール後に他の管理者ログインを ZENworks コントロールセンターに追加した場合は、必要な eDirectory への読み込み権および ZENworks Configuration Management データベースへの書き込み権を持っていると、それらも有効になります。

ゾーンのデータベースへ書き込む場合の SSL のデフォルトポートは 443 です。

4.4.3 PXE デバイスとサーバ参照リスト

Configuration Management と ZENworks Linux Management システムが同時に実行されている場合は、次の情報が適用されます。

- ◆ **PXE デバイス** : PXE デバイスが起動される場合、PXE サービスに対してネットワーク上でブロードキャスト要求が実行されます。ZENworks Proxy DHCP サーバ (novell-proxydhcp デモモン) が、この要求にตอบสนองし、デバイスが割り当て済みプレブートワークに要求を送信できるイメージングサーバの IP アドレスなどの情報が提供されます。

PXE デバイスは、新旧両方の ZENworks システムを同時に実行している環境に存在できるので、イメージングサーバで専用の ZENworks バージョンを見つけられない場合、デバイスは割り当て済み起動前作業を判断できません。

ZENworks Configuration Management では、デバイスは複数の管理ゾーンに存在できません。割り当てられているプレブート作業が存在するかどうかを正しく判断できるように、PXE デバイスがホームゾーンに関連付けられている PXE サービスに連絡することは不可欠です。1つの管理ゾーンしか存在しない場合、すべてのプロキシ DHCP サーバで同じゾーンに属すサービスのアドレスが提供されるため、簡単に行われます。デバイスは、同じゾーン内のイメージングサーバからプレブートワークを要求でき、同じ応答を取得できます。

PXE サービスに対する PXE デバイスの初期要求は、ブロードキャストとしてネットワークに送信され、すべてのプロキシ DHCP サーバは、それぞれのゾーン (ZENworks Configuration Management と ZENworks Linux Management) またはツリー内のプロキシ DHCP サーバ (Windows または NetWare イメージングサーバを使用する従来の ZENworks バージョン) に関連する情報とともに応答します。どのプロキシ DHCP サーバが最初に応答するか (複数のプロキシ DHCP サーバが応答する場合)、またはどのサーバの応答がデバイスで使用されるかを決定することはできないので、各 PXE デバイスがホームゾーンまたはツリー内でサーバに連絡できるようにするのは不可能です。

- ◆ **サーバ参照リスト** : PXE サービスを持つ ZENworks 環境サービスの場合、サーバ参照リストの設定セクションでは、PXE デバイスを適切なイメージングサーバに接続する方法が説明されます。サーバ参照リストは PXE デバイスでのみ使用され、ZENworks Configuration Management では、1つの管理ゾーンのみ、アクティブなプロキシ DHCP サーバとサーバ参照リストがある必要があります。ネットワークセグメントでアクティブにできるのは1つの参照リストのみであるため、参照リストが設定されている ZENworks Linux Management を実行している場合は、Linux Management 用のプロキシ DHCP サービスを無効にする必要があります。このため、Configuration Management の参照リストは、すべての PXE デバイスで使用できます。

サーバ参照リストによって、すべてのデバイスがプレブートワーク割り当てについてのホームゾーンまたはツリーに連絡できるようにできます。リストには、既知の管理ゾーンまたは従来の ZENworks システムのツリーごとの、イメージングサーバの IP アドレスが含まれている必要があります。デバイスが、サーバからプレブート

ワークを要求する場合、サーバは最初にデバイスがサーバと同じゾーンまたはツリーに属しているかどうかを決定します。属していない場合は、デバイスのホームゾーンまたはツリーを見つけるまで、サーバは、サーバ参照リスト内の各サーバへの要求を参照します。デバイスはその後、すべての今後の要求を正しい novell-proxydhcp デーモンに送信するよう指示されます。

2つのサーバ参照リストがアクティブな場合は、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Configuration Management をインストールします。
手順については、『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』を参照してください。
- 2 Configuration Management システムで、サーバ参照リストを設定します。
- 3 Linux 管理システムでプロキシ DHCP サービスを無効にします。

4.4.4 インクリメンタルマイグレーション

マイグレーション画面は、設計上、1つの項目または何千もの項目を一度に移行できる粒度を備えています。したがって、セッションで複数の項目を移行でき、必要な数を使用できます。

従来の ZENworks と Configuration Management は同時に実行できますが、相互運用性はありません。そのため、部署ごとや地理的な地域ごとなど、eDirectory オブジェクトを増分で移行できます。

移行するとき、ZENworks Migration Utility では、GUID とバージョン番号が維持されますが、キャッシュは使用されません。したがって、ワークステーションオブジェクトを移行する場合には、Configuration Management でワークステーションを登録する前に、そのワークステーションに関連のあるすべての eDirectory 関連付けを移行することをお勧めします。

4.4.5 マイグレーション順序

次のリストは、何を移行できるかと、推奨するマイグレーション順序を示しています。ただし、これらのマイグレーションタイプのサブセットを含め、どんな順序でも移行できます。

1. アプリケーション
2. イメージ
3. ポリシー
4. ゾーンの設定
5. ワークステーション
6. 関連付け

この順序は、Configuration Management 内の関連付けを再作成するためにすでに存在する、アプリケーションと関連付けられたオブジェクトが必要な関連付けなど、可能な従属によって推奨されます。

4.4.6 管理ゾーンの設定

Novell Application Launcher 環境設定およびイメージングポリシーの次の eDirectory 情報を移行できます。この情報は、および ZENworks Configuration Management の管理ゾーン設定になります。

表 4-1 eDirectory から移行するための ZENworks 管理ゾーン設定

ZENworks 管理ゾーン設定	eDirectory ソース
デフォルトゲートウェイ	イメージングポリシー
デバイスイメージング割り当てルール	イメージングポリシー
DNS サフィックス	イメージングポリシー
完全更新頻度	ワークステーション用ランチャー構成設定 ユーザにとっては、これらは Configuration Management の ZENworks Explorer 設定ポリシーに移行されます。
名前サーバ	イメージングポリシー
PXE メニュー設定	イメージングポリシー
ランダム更新最長待機時間	ワークステーション用ランチャー構成設定
手動更新	ワークステーション用ランチャー構成設定
サブネットマスク	イメージングポリシー
関連付けが解除されてからアンインストールされるまでの日数	ワークステーション用ランチャー構成設定
IP 設定	イメージングポリシー
ワークグループ	イメージングポリシー
コンピュータ名のプレフィックス	イメージングポリシー

上に一覧されたワークステーションのランチャー設定だけが、ゾーン設定として移行され、ユーザのランチャー設定は ZENworks Configuration Management 内の ZENworks Explorer 設定ポリシーとして移行されます。詳細については、[91 ページのセクション A.4 「管理ゾーンの設定」](#)を参照してください。

上記にリストしたイメージングポリシーのみが ZENworks Configuration Management に移行されます。

4.4.7 ワークステーションの移行

2 つの異なる方法でワークステーションを ZENworks 管理ゾーン内で管理対象デバイスとして設定できます。

- ◆ マイグレーションユーティリティを使用して移行を行い、ZENworks コントロールセンターを使用して Adaptive Agent をワークステーションに展開します。

これにより、ワークステーションとその他の eDirectory オブジェクト間に設定した eDirectory 関連付けを維持することができます。

また、ワークステーション用に eDirectory オブジェクト内で確立された GUID も維持します。

- ◆ ZENworks コントロールセンターを使用してワークステーションを検出し、Adaptive Agent をワークステーションに展開します。

設定されている eDirectory 関連付けおよび GUID は維持されないため、ZENworks コントロールセンターを使用してワークステーションへの新しい割り当てを作成する必要があります。

Workstation オブジェクトへの関連付けを維持したいかどうか、およびワークステーション用に維持したい GUID があるかどうかを判別します。ある場合は、マイグレーションユーティリティを使用してワークステーションを移行し、ZENworks コントロールセンターを使用して Adaptive Agent を展開します。そうでない場合、ZENworks コントロールセンターを使用してワークステーションを検出して Adaptive Agent をワークステーションに展開し、マイグレーションユーティリティのワークステーションステップを省略します。

4.4.8 ユーザの識別

ユーザは Configuration Management に移行されません。eDirectory オブジェクトは、Configuration Management から簡単に選択されます。このため、eDirectory 内でユーザオブジェクトを変更すると、Configuration Management ですぐに認識されます。

最初に ZCC 内でユーザソースを設定してから、[推奨順序](#)に従ってオブジェクトタイプを移行する必要があります。ユーザソースが Configuration Management に認識される場合は、ユーザの従属関係は、マイグレーション中はさらに簡単に解決されます。

重要: 移行中のユーザソースと関連オブジェクトは、同じツリー内にある必要があります。

Active Directory ユーザは、eDirectory ユーザと同じ方法で Configuration Management で使用されます。ただし、従来の ZENworks システムでは、Active Directory には移行するディレクトリオブジェクトはありません。Active Directory が ZENworks コントロールセンターで環境設定され、eDirectory および Active Directory が Novell Identity Manager または類似のユーティリティのいずれかを使用して同期化されている場合は、eDirectory ユーザの関連付けを Active Directory のユーザに移行できます。

4.4.9 Configuration Management 内のフォルダ使用

コンテキストを使用して eDirectory でオブジェクトを整理するのと同じような方法で、Configuration Management はフォルダを使用します。フォルダ構造を定義することで、Configuration Management 内で移行済みデータの整理方法を計画する必要があります。

Configuration Management 内でフォルダを作成する場合は、次のことに留意してください。

- ◆ Configuration Management には、eDirectory ツリー名コンテキストなどの、フォルダを配置できるアクセス可能なルートディレクトリはありません。代わりに、Configuration Management には、オブジェクトを移行できる場所のデフォルトの開始パスを提供する異なる Configuration Management コンポーネントに対して特定の基本

ルートレベルフォルダが提供されています。たとえば、移行されるすべてのポリシーは **Policies** フォルダの下に配置されます。ZCC 内では、移行済みポリシーは [ポリシー] ページに表示されます。

- ◆ eDirectory コンテキストを **Configuration Management** に移行できます。これらは ZENworks データベースのフォルダに変換されます。移行する現在のタイプに適用可能なコンテキスト内の下層にあるものもすべて、マイグレーションキューに入ります。

たとえば、アプリケーションを移行している場合、サブコンテナにあるアプリケーションオブジェクトも含む、コンテナの下のすべてのアプリケーションオブジェクトは待ち行列に追加されます。移行前に、キュー済みフォルダにある削除したくないオブジェクトを削除できます。

- ◆ マイグレーション画面を使用して、**Configuration Management** 内に新しいフォルダを作成できます。これらのフォルダは、どんな方法でもネストできます。eDirectory にある場合はいつでも、eDirectory オブジェクトをこれらのフォルダにドラッグできます。

eDirectory にある **Configuration Management** の同じ組織を維持する必要はありません。ただし、コンテナへの可能な関連付けのため、コンテナにグループ化された eDirectory オブジェクトがある場合は、コンテキストに含まれる個別のオブジェクトではなく、これらのコンテキストを移行することをお勧めします。

- ◆ eDirectory オブジェクトを新しい **Configuration Management** フォルダにドラッグアンドドロップする前に、空のフォルダを移行して、**Configuration Management** でディレクトリ構造を作成できます。マイグレーションの目的のためには、ナビゲーションの違いによって、ZCC で実行するよりは ZENworks Migration Utility から実行するほうが高速です。
- ◆ イメージオブジェクトを移行するときには、オブジェクトに含まれているイメージング情報がイメージングバンドル情報として ZENworks Configuration Management データベースに移行されます。ただし、実際のイメージファイル (.zmg) は、イメージングサーバ上のイメージングディレクトリにコピーされます。この配置は制御できません。

4.4.10 マイグレーションモデリング

マイグレーション画面は、マイグレーションをモデル化できるように設計されているので、モデルを改良した後にマイグレーションを実行します。モデリングデータは、後から改訂できるようにワークステーションに自動的に保存されます。したがって、このユーティリティのモデリング機能を使用して、マイグレーションを視覚的に計画できます。

マイグレーション画面を使用してモデル化するには、オブジェクト、コンテキスト、および関連付けを eDirectory ツリービューから選択して、**Configuration Management** 管理ゾーンのビューにドラッグし、マイグレーションの待ち行列に入れます。これらの項目 (オブジェクト、コンテキスト、および関連付け) は、**Configuration Management** オブジェクト、フォルダ、および関連付けなどの宛先パネルのリストに表示されます。これらのアイコンとテキストは、すでに移行されている **Configuration Management** の項目 (ティールブルー) と区別するために、淡色表示されます。黒色テキストの項目は、元々 **Configuration Management** で作成されたか、別のワークステーションから移行された項目です。これは、ユーティリティを実行するワークステーションにマイグレーション履歴ファイルが保持されているためです。

ティールカラーは、今までにワークステーションから何が移行されたかを常に認識できるように、一貫性を持ちます。eDirectory ツリーと ZENworks データベースコンテンツのリストはどちらも、移行された項目に対してティールカラーを維持します。これは、eDirectory の観点から何が移行されたかを認識するのに役立つことがあります。

移行するには、マイグレーション画面を使用して、移行する項目を待ち行列に入れ、待ち行率に入れる際にユーティリティで識別される問題を解決して、ボタンをクリックして、eDirectory データを ZENworks データベースに移行します。したがって、紙面上でマイグレーションを計画するだけでなく、マイグレーション画面のこのモデリング機能を使用して、実際にマイグレーションを実行する前に、マイグレーションを視覚化できます。

マイグレーション画面は、マイグレーションタスクで動作します。[39 ページのセクション 4.4.5 「マイグレーション順序」](#) で説明されているタスクは、それぞれが 1 つのマイグレーションセッションです。選択したタスクは、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると移行されます。したがって、少なくとも、[今すぐ移行] ボタンを数回クリックして eDirectory データを移行する計画を立てる必要があります。ただし、マイグレーションタスクごとに多くのセッションで構成されるインクリメンタルマイグレーションをモデル化できます。

4.4.11 最新情報

紙面上でマイグレーションを計画するだけでなく、マイグレーション画面を使用してマイグレーションをモデル化できます。マイグレーション画面を使用して開始するには、[45 ページの第 5 章 「ZENworks Configuration Management への移行」](#) に進みます。

ZENworks Configuration Management への移行

5

従来の ZENworks ソフトウェアを Configuration Management に移行するには、次のタスクを順序どおりに実行します。

1. [45 ページのセクション 5.1 「前提条件」](#)
2. [47 ページのセクション 5.2 「ZENworks Migration Utility の開始」](#)
3. [49 ページのセクション 5.3 「マイグレーション元の選択」](#)
4. [51 ページのセクション 5.4 「マイグレーション先の選択」](#)
5. [53 ページのセクション 5.5 「アプリケーションの移行」](#)
6. [61 ページのセクション 5.6 「イメージの移行」](#)
7. [65 ページのセクション 5.7 「ポリシーの移行」](#)
8. [69 ページのセクション 5.8 「管理ゾーン設定の移行」](#)
9. [72 ページのセクション 5.9 「ワークステーションの移行」](#)
10. [75 ページのセクション 5.10 「関連付けの移行」](#)
11. [83 ページのセクション 5.12 「管理する移行済みワークステーションの設定」](#)
12. [83 ページのセクション 5.13 「移行したワークステーションのイメージの作成」](#)
13. [83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#)

5.1 前提条件

Configuration Management への移行の前提条件を満たすためには、次の手順を実行します。

1. **マイグレーション元の ZENworks のバージョンが次のいずれかであることを確認します。**
 - ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1
 - ◆ ZENworks Desktop Management 6.5
 - ◆ ZENworks 7.x デスクトップ管理

重要：現在インストールされている従来の ZENworks システムには、Novell eDirectory ツリーと ZENworks スキーマがインストールされており、ZENworks eDirectory オブジェクトがツリー内にリストされている必要があります。ZENworks Migration Utility を使用して、従来のバージョンの ZENworks に存在しない新しいオブジェクトや属性を Configuration Management 内に作成することはできません。ただし、新しいフォルダを作成することはできます。

2. eDirectory データの移行のために、管理ゾーンを確立し、ターゲット ZENworks データベースを提供するには、Configuration Management ソフトウェアを ZENworks Configuration Management データベースとともに少なくとも 1 つのプライマリサーバにインストールします。

詳細については、『[ZENworks 11 SP2 インストールガイド](#)』を参照してください。

- 3 ZENworks コントロールセンターを使用して、ユーザのユーザソースを設定し、ユーザが関連付けられている eDirectory 項目を正常に移行できるようにします。ユーザソースの設定方法の詳細については、「[「ユーザソース」](#)」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

eDirectory を ZENworks Configuration Management のユーザソースとして継続して使用するには、eDirectory のバージョンを最小要件を満たすようにアップデートする必要があります。ZENworks Configuration Management での eDirectory 最小要件の詳細については、「[「信頼されたユーザソース」](#)」(『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』)を参照してください。

ただし、eDirectory に従来の ZENworks オブジェクトとのユーザ関連付けがない場合は、ユーザソースは必要ありません。

- 4 eDirectory の 8.7 以前のバージョンを実行している場合、または Starter Pack 1.0 からアップグレードした場合は、[ステップ 4b](#) に一覧表示されている LDAP 属性が適切にマップされていることを確認してください。LDAP はマイグレーション中に既存のアプリケーション属性を読み取るために使用されます。

新しいバージョンの eDirectory では、新しい属性名に自動的にスペースとコロンをマップします。使用しているバージョンの eDirectory に複数のバージョンの属性がある場合 (1 つはコロンを使用しており、他ではスペースを使用しているなど) は、自動マッピング機能によりマイグレーションユーティリティにスペースのみを使用するバージョンを提供することができます。ただし、コロンを使用する属性のバージョンほうがマイグレーションには適しています。

Configuration Management へアプリケーションを移行するための属性マッピングを設定する

- 4a ConsoleOne で、LDAP グループオブジェクトを選択して、[\[属性マッピング\]](#) タブをクリックします。

- 4b 次の属性を見つけて、正しい名前をマップします。

古い属性名	新しい属性名
App:Path	appPath
App:Icon	appIcon
App:Contacts	appContacts
App:Working Directory	appWorkingDirectory
App:Drive Mappings	appDriveMappings
App:Printer Ports	appPrinterPorts
App:Parameters	appParameters
App:Flags	appFlags
App:Startup Script	appStartupScript
App:Shutdown Script	appShutdownScript

- 4c 変更内容を保存します。

- 5 ユーティリティを実行する Windows デバイスに ZENworks Migration Utility 実行可能ファイルをダウンロードしてインストールします。詳細については、[34 ページのセクション 4.2 「ZENworks Migration Utility のダウンロードおよびインストール」](#)を参照してください。
- 6 マイグレーションを計画します。
ZENworks Migration Utility をモデリングツールとして使用し、計画で役立てることができます。詳細については、[36 ページのセクション 4.4 「マイグレーションの計画」](#)を参照してください。
- 7 [47 ページのセクション 5.2 「ZENworks Migration Utility の開始」](#)に進みます。

5.2 ZENworks Migration Utility の開始

ZENworks Migration Utility は、次のデバイスで実行できます。

- ◆ Windows Server 2003 SP1
- ◆ Windows 2000 SP4 ワークステーション
- ◆ Windows XP SP2
- ◆ Windows XP SP3
- ◆ Windows Vista
- ◆ Windows Vista SP1
- ◆ Windows Server 2008

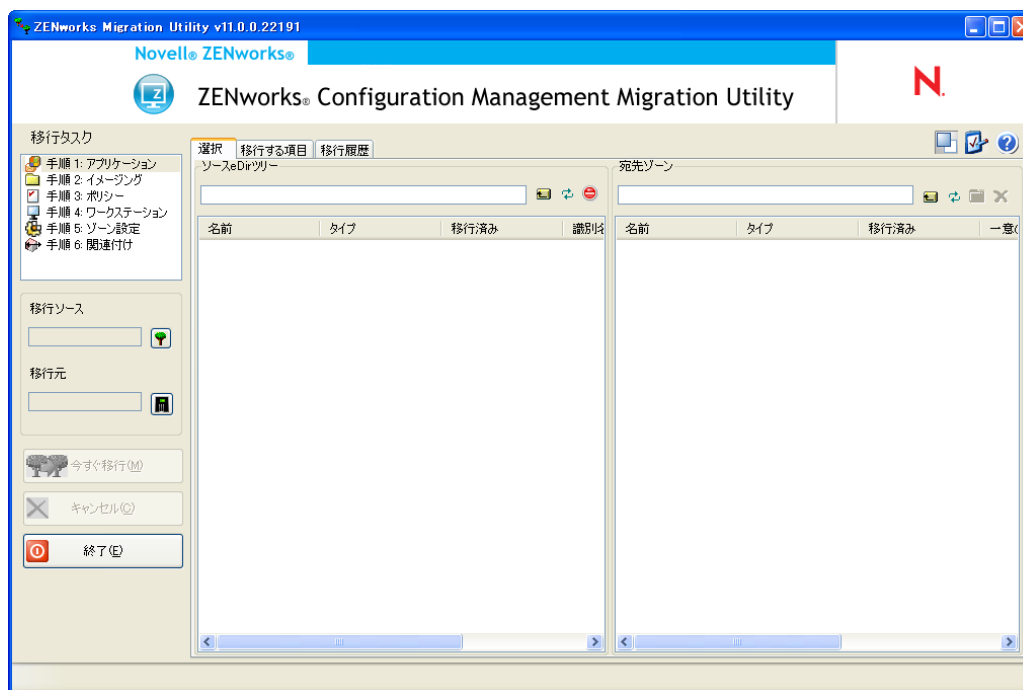
Microsoft.NET 2.0 以降も必要です。

ZENworks Migration Utility は、下位の互換性はありません。ZENworks サーバをアップグレードするときは必ず ZENworks サーバから最新バージョンのマイグレーションユーティリティをコピーしてインストールしてください。詳細については、[47 ページのステップ 5](#)を参照してください。

ZENworks Migration Utility を開始するには、次の手順に従います。

- 1 サポートされている Windows デバイスで、[スタート] > [すべてのプログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Configuration Management Migration Utility] > [起動] の順にクリックします。
- 2 (条件付き) デフォルトでは、初回に最新情報ウィンドウが表示されます。ユーティリティを起動するたびにこのウィンドウを表示したくない場合は、[今後このメッセージは表示しない] オプションをオンにします。
- 3 [OK] をクリックします。

図 5-1 ZENworks Configuration Management Migration Utility



4 49 ページのセクション 5.3 「マイグレーション元の選択」に進みます。

5.3 マイグレーション元の選択

マイグレーション元の Novell eDirectory ツリーを識別し、ログインするには、次の手順を実行します。

図 5-2 マイグレーション元

The screenshot shows a dialog box titled "eDir ログイン" (eDir Login). The header area includes the Novell ZENworks logo and the text "ZENworks Configuration Management Migration Utility". The main area contains several input fields: "ツリー(T):" (Tree) with a dropdown menu showing "<新しいツリー>" (New Tree); "ユーザ名(例: cn=admin,o=novell)(U):" (Username); "パスワード(P):" (Password); "サーバ (DNS名またはIPアドレス)(S):" (Server); and "LDAPポート(L):" (LDAP Port) with the value "636" and a checked checkbox for "SSLを使用する(E)" (Use SSL). At the bottom, there are three buttons: "ヘルプ" (Help), "OK", and "キャンセル" (Cancel).

1 次のフィールドを入力し、マイグレーション元の eDirectory ツリーを認証します。

ツリー: このフィールドは、[eDir ログイン] ダイアログボックスに最初にアクセスしたときには表示されません。

2 回目以降のログイン時には、このダイアログボックスを使用して以前にログインしたことのあるツリーがドロップダウンリストに表示されます。

このダイアログボックスを使用するたびに、最後にログインしたツリーは、ここに表示されます。

リストされていない eDirectory ツリーを追加するには、[<New Tree> (新規ツリー)] デフォルトオプションを選択して、他のフィールドを入力し、[OK] をクリックします。その後、そのツリーはドロップダウンリストで使用可能になります。

ユーザ名: LDAP ユーザ名を指定します。

たとえば、cn=readonlyuser,ou=container,o=organization のようになります。

マイグレーションユーティリティを使用してこのツリーに初めてログインした場合は、何も表示されません。初めてでない場合は、最後に使用したユーザ名が表示されます。

[ツリー] フィールドで eDirectory ツリーを選択する場合、このフィールドには、そのツリーで前回使用したユーザ名が自動的に入力されます。

注: オブジェクトを移行するには、ユーザが eDirectory で少なくとも読み込みと比較権限を持ち、これらのオブジェクトを含むコンテナの保管人として設定されている必要があります。保管人追加の詳細については、『*ConsoleOne ユーザガイド* (<http://www.novell.com/documentation/consol13>)』を参照してください。

パスワード: パスワードを指定します。これは、認証のたびに入力する必要があります。

サーバ: eDirectory ツリーをホストするサーバに対して、DNS 名または IP アドレスのどちらかを指定します。[ツリー] フィールドで eDirectory ツリーを選択する場合は、このフィールドは自動的に入力されます。

LDAP ポート: LDAP ポートを指定します。デフォルトポートである、SSL には 636、非 SSL には 389 が表示されます。通信のパスワード保護には、SSL を推奨します。[ツリー] フィールドで eDirectory ツリーを選択する場合は、このフィールドは自動的に入力されます。

SSL の使用: SSL を使用している場合、このチェックボックスを選択します。このフィールドは、[ツリー] フィールドで項目を選択すると、自動的に以前の選択内容に設定されます。

2 [OK] をクリックします。

[ソース *eDir* ツリー] セクションには、使用できるすべての eDirectory 情報が表示され、このレベルに含まれる組織が最初に表示されます。[マイグレーション元] フィールドには、ツリー名も表示されます。

3 マイグレーション先を選択するには、[51 ページのセクション 5.4 「マイグレーション先の選択」](#)に進みます。

5.4 マイグレーション先の選択

マイグレーション元の Novell ZENworks Configuration Management 管理ゾーンを識別し、ログインするには、次の手順を実行します。

図 5-3 マイグレーション先

The screenshot shows a dialog box titled "ゾーンログイン" (Zone Login) for the "Novell ZENworks Configuration Management Migration Utility". It features a header with the Novell logo and a large red "N". The main area contains several input fields: "ユーザ名(U):" (Username), "パスワード(P):" (Password), "サーバ (DNS名またはIPアドレス)(S):" (Server), and "Webサービスポート(W):" (Web Service Port) with a checked "SSLを使用する(E)" (Use SSL) checkbox. Below that is "ファイルアップロードHTTPポート(E):" (File Upload HTTP Port) with an unchecked "SSLを使用する(E)" checkbox. At the bottom are buttons for "ヘルプ" (Help), "OK", and "キャンセル" (Cancel).

1 次のフィールドを入力して、宛先の管理ゾーンに認証します。

ゾーン: このフィールドは、[ゾーンログイン] ダイアログボックスに最初にアクセスしたときには表示されません。

2 回目以降のログイン時には、このダイアログボックスを使用して以前にログインしたことのあるゾーンがドロップダウンリストに表示されます。

このダイアログボックスを使用するたびに、最後にログインしたゾーンは、ここに表示されます。

リストされていない管理ゾーンを追加するには、[< 新規ゾーン >] デフォルトオプションを選択して、他のフィールドを入力し、[OK] をクリックします。その後、そのゾーンはドロップダウンリストで使用可能になります。

ユーザ名: ゾーンのユーザ名を指定します。[管理者] が通常使用されます。

たとえば、管理者が ZENworks コントロールセンターを通してスーパー管理者権限が与えられた `admin1@tree1` という名前の LDAP ユーザである場合、次の基準に基づいてユーザ名を指定します。

- ZENworks コントロールセンターに `admin1` と同じ名前で作成されたその他の管理者がいない場合は、`admin1` または `admin1@tree1` という名前でユーザ名を指定できます。
- ZENworks コントロールセンターに `admin1@tree2`、`admin1@tree3`、または `admin1` などと同じ名前で作成された他の管理者がいる場合は、完全なユーザ名：`admin1@tree1` を指定する必要があります。

マイグレーションユーティリティを使用してこのゾーンに初めてログインした場合は、何も表示されません。初めてでない場合は、最後に使用したユーザ名が表示されます。

[ゾーン] フィールドで管理ゾーンを選択した場合、このフィールドには、そのゾーンにログインするのにマイグレーションツールで最後に使用したユーザ名が自動的に入力されます。

パスワード: パスワードを指定します。これは、認証のたびに入力する必要があります。

サーバ: 管理ゾーンデータベースをホストするサーバの場合、DNS 名または IP アドレスのいずれかを指定します。このフィールドは、管理ゾーンを [ゾーン] フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。

Web サービスポート: Web サービスポートを指定します。デフォルトポートの 443 が表示されます。このフィールドは、管理ゾーンを [ゾーン] フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。ただし、サーバに設定されたポートがデフォルトポートとは異なる場合は、サーバで設定されたポートを指定してください。

SSL の使用: SSL を使用しているかどうかを選択します。

HTTP ポートのファイルアップロード: HTTP ポートを指定します。デフォルトポートの 80 が表示されます。このフィールドは、管理ゾーンを [ゾーン] フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。ただし、サーバに設定されたポートがデフォルトポートとは異なる場合は、サーバで設定されたポートを指定してください。

SSL の使用: SSL を使用しているかどうかを選択します。

2 [OK] をクリックします。

[マイグレーション履歴] タブと同様に、[宛先ゾーン] パネルに、暗い灰青色のテキストで、以前に移行された項目が表示されます。さらに、元々 ZENworks コントロールセンターで作成され、移行されていない項目が黒いテキストで表示されます。前に現在のワークステーションで ZENworks Migration Utility を使用してマイグレーションをモデル化した場合は、まだ移行されていない項目は、淡色表示で表示されます。

3 移行する項目を選択するには、適切なセクションに進みます。


1. [53 ページのセクション 5.5 「アプリケーションの移行」](#)
2. [61 ページのセクション 5.6 「イメージの移行」](#)
3. [65 ページのセクション 5.7 「ポリシーの移行」](#)
4. [72 ページのセクション 5.9 「ワークステーションの移行」](#)
5. [75 ページのセクション 5.10 「関連付けの移行」](#)

上記リストは、考えられる従属関係による、提案されたマイグレーション順序を示します。ただし、サブセットを含めて、いかなる順序でも移行できます。

5.5 アプリケーションの移行

アプリケーションを eDirectory から Configuration Management に移行するには次の手順を実行します。

注: アプリケーションのマイグレーションでは、HKEY_CURRENT_USER で始まるレジストリエントリは、すべて、ユーザとして実行されるように移行され、HKEY_LOCAL_MACHINE などでは始まる他のエントリは、システムとして実行されるように移行されます。結果的に、HKEY_LOCAL_MACHINE 内で定義された %CN% や %OU% などの一部のユーザ関連マクロは、マイグレーション後の管理対象デバイスで解決されません。

1  (マイグレーションツール設定アイコン) をクリックして、以下の手順を実行します。

1a ZENworks データベースの既存のアプリケーションオブジェクトを上書きするには、[全般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書きする] オプションをオンにします。

警告: これは、前に移行されたオブジェクトを含め、データベース内の既存のアプリケーションオブジェクトを上書きします。

[すでに存在するオブジェクトを上書きする] オプションを有効にして、アプリケーションを ZENworks Configuration Management に再度移行する場合、再度移行するアプリケーションのバージョンが既存の ZENworks Configuration Management バンドルのバージョン以上であることを確認してください。これは、バンドルが管理対象デバイスに割り当てられたときに不整合が発生しないようにするために必要です。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

[アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行します] オプションを使用すると、オブジェクト (アプリケーションまたはポリシー) をサンドボックスとして移行できます。このオプションはデフォルトで選択されています。

[依存アプリケーションをサンドボックスとして移行します] オプションを使用すると、依存バンドルもサンドボックスとして移行できます。

1b アプリケーションの移行で使用可能なオプションにアクセスするには、[アプリケーション] をクリックし、次に希望の設定を指定します。


設定	説明
失敗した MSI ビルドの移行	<p>ユーティリティが、1つまたは複数の属性を MSI に移行できなかった場合は、[失敗した MSI ビルドの移行] オプションを使用すると、強制的にアプリケーションのマイグレーションが行えます。</p> <p>MSI バンドルは、AOT アプリケーションオブジェクトが MSI に変換される際に警告が生成された場合、失敗したとみなされます。これらの MSI バンドルは、警告にも関わらず正常に移行されることがよくあります。たとえば、AOT に含まれている Windows ショートカットリンクがもはや有効ではないために、警告が生成されることがあります。</p> <p>このオプションを有効にする場合は、警告メッセージは表示されません。移行されなかった属性に関する情報はマイグレーションログで確認できます。</p>
作成された MSI および一時ファイルを保持する	<p>[作成された MSI および一時ファイルを保持する] オプションは、アプリケーションが作成されて移行されることを意味しますが、一時ファイルを保持しているディレクトリと新しい MSI ファイルは自動的に削除されません。これにより、Configuration Management 内のコンテンツサービスに組み込まれる前に新しく作成された MSI へアクセスできるようになります。</p>
コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード	<p>[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションを使用すると、コンテンツサーバにコンテンツをアップロードできます。デフォルトではこのオプションが選択されています。</p> <p>アプリケーションは、Install MSI アクションとして ZENworks Configuration Management サーバに移行されます。また、[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションが選択されており、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決される場合、コンテンツサーバにもアップロードされます。</p> <p>次のシナリオでは、アプリケーションは Install Network MSI アクションでバンドルとして ZENworks Configuration Management サーバに移行され、コンテンツサーバにはアップロードされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションが選択解除されています。 ◆ [コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションが選択されていますが、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決されないか、ファイルが見つかりません。

設定	説明
個別アクションとして配布オプションを移行	<p>[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションにより、INI 編集アクション、レジストリの編集アクション、または編集可能な実行スクリプトアクションなど、個々のアクションとしてアプリケーションの配布オプションを移行できます。デフォルトではこのオプションは選択されていません。[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションを選択解除すると、MSI としてアプリケーションの配布オプションを移行します。</p> <p>[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが有効である場合は、アプリケーションは固有のアクションでバンドルとして移行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ レジストリの変更があるアプリケーションは、レジストリの編集アクションでバンドルとして移行されます。 ◆ INI 設定があるアプリケーションは、INI ファイルの編集アクションでバンドルとして移行されます。 ◆ テキストファイルの変更があるアプリケーションは、テキストファイルの編集アクションでバンドルとして移行されます。 ◆ アイコンやショートカットがあるアプリケーションは、実行スクリプトアクションまたはファイル削除アクションと共に Windows のバンドルとして移行されます。 ◆ アプリケーションファイル変更があるアプリケーションは、次のアクションでバンドルとして移行されます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ファイルのコピーアクションまたはファイルのインストールアクションとしてファイル。 ◆ ディレクトリのコピーアクション、インストールディレクトリアクション、またはディレクトリの作成 / 削除アクションとしてディレクトリ。 ◆ ファイルの削除アクションとしてファイルが削除されます。 ◆ ディレクトリの作成 / 削除アクションとしてディレクトリが削除されます。 <p>[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが無効である場合は、アプリケーションは MSI のインストールアクションでバンドルとして移行されます。ただし、テキストファイル編集アクション、ディレクトリのコピー、ディレクトリのインストール、ファイル削除は、この MSI のインストールアクションの一環ではありません。</p>

設定	説明
作業ディレクトリ	[作業ディレクトリ] オプションを使用すると、一時マイグレーションファイルをデフォルトユーザの %TEMP% ディレクトリとは異なる場所に配置することができます。深いパス (256 文字以上) を持つアプリケーションを移行する場合は、このオプションを使用すると c:\temp のように一時パスを短くすることができます。

- 1c** [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。
- 2** [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ1: アプリケーション] をクリックします。

注: マイグレーションユーティリティでは、配布ルールの複雑なすべての組み合わせのマイグレーションをサポートできるようになりました。従来の ZENworks の新規グループを含む配布ルールは、ZENworks Configuration Management 内のフィルタおよびフィルタセットの組み合わせとして移行されます。

- 3** マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。
- 3a** [ソース *eDir* ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動してアプリケーションオブジェクトを探し、マイグレーションのキューに入れます。[ソース *eDir* ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。
- 表示される eDirectory 情報は、移行している情報のタイプに従ってフィルタ処理されます。したがって、選択したタイプに対して移行できるコンテキストおよびオブジェクトをブラウズするだけで済みます。
- 3b** 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックし、マイグレーションの待ち行列に入れるオブジェクトのフォルダを作成して、[新規フォルダ] を選択します。
- ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内に作成され、ZENworks コントロールセンターではフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。
- アプリケーションオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、アプリケーションオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成および移行することができます。
- また、既存の eDirectory コンテナも、すべてのアプリケーションオブジェクト (サブコンテナ含む) も、移行できます。コンテナは、コンテナの下になる eDirectory に存在するすべてのアプリケーションオブジェクトを含むフォルダに変換されます。[ソース *eDir* ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとアプリケーションオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。
- [宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、移行しない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。
- 3c** [ソース *eDir* ツリー] パネルで、移行するアプリケーションオブジェクトまたはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。(条件付き)すでに移行されたアプリケーションと同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションを移行するには、[81 ページのセクション 5.11 「同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションの移行」](#)を参照してください。

1つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

サイトリスト上アプリケーションをドラッグしたとき、その複製がすでにキューに入っている場合は、どちらを移行するか決定して重複を解決するように求めるメッセージが表示されます。項目を右クリックして、移行する項目を決定するのに役立つ情報について、[属性を表示] を選択できます。

増加させて移行する場合は、このときに移行したいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

[マイグレートする項目] タブで、移行する項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[マイグレートする項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks Migration Utility は、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

- 4 必要に応じて[ステップ 3](#)を繰り返し、この時点でマイグレーションのためにモデル化するアプリケーションオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているアプリケーションオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

- 5 [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているアプリケーションオブジェクトを表示できます。

[マイグレートする項目] タブで、チェーン済みアプリケーションは個別にリストされますが、[選択] タブの [宛先ゾーン] パネルは、親アプリケーションの下に階層化されてリストされます。

- 6 移行する前にマイグレーションキューから項目を削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 項目を選択して、**x** アイコンをクリックします。
- 選択した項目を右クリックして、[Delete selected] をクリックします。

これは、[マイグレートする項目] タブおよび [選択] タブの [宛先ゾーン] パネルで実行できます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。この選択内容には、フォルダとその内容を含みます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、Configuration Management データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてを移行するには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後、Migration Utility に適用されます。

- フォーカスは、すぐに [マイグレートする項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- [ステップ] カラムには、移行中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは、Migration Utility の一番下にあります。
- すでに複製が宛先ゾーンパネルのマイグレーションのキューに入っている、サイトにリストされたアプリケーションをドラッグすると、どれを移行するか選択するようメッセージが表示されます。項目を右クリックして、移行する項目を決定するのに役立つ情報について、[属性を表示] を選択できます。
- [マイグレーション履歴] タブには、移行されたすべての項目が表示されます。このリストは、項目が移行されると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[マイグレートする項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックして切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないものの移行される項目が含まれるビューを更新できます。
- [選択] タブには、移行済みオブジェクトすべてが表示され、移行後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次に Migration Utility を開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前に移行した項目を確認できます。

- マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。
マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#) を参照してください。
- チェーン済みアプリケーションは、[マイグレーション履歴] タブに個別に表示されますが、[マイグレーションログ] カラムには、アプリケーションのログではなく GUID が表示されます。他のオブジェクトがチェーンされたメインのアプリケーションオブジェクトにのみ、[ログ表示] ボタンがカラムに表示されます。
- マイグレーション中に、移行されるアプリケーションごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各アプリケーションが正常に移行されると、削除されます。

INI 設定の移行中、従来の ZENworks における INI 設定の配布オプションは、ZENworks Configuration Management で最も利用可能なオプションにマッピングされます。次の表は、このマッピングを示しています。

従来の ZENworks の INI 設定の配布オプション	ZENworks Configuration Management でマップされるオプション
常に作成	キーの追加
存在しない場合に作成	見つからない場合はキーを追加
作成するか、既存のセクションに追加	キーが存在する場合でもキーを追加
存在する場合に作成	キーの値を置換
削除	キーの削除
作成するか、既存の値に追加	値の追加または付加
既存の値を削除	値を削除

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前に移行した項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ 移行する他の項目を検出する場合は、**ステップ 3** から **ステップ 7** までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧表示された項目を削除するには、項目を選択して **x** アイコンをクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前に移行済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターで作成されたか別のワークステーションから移行された項目は黒色テキストで表示されます。削除オプション (x) は、双方で使用できます。したがって、以前に Configuration Management から移行されていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

8b [マイグレートする項目] タブで、移行に失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目を移行するか、[マイグレートする項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

8c 移行しない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[マイグレートする項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[マイグレートする項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだ移行されていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択すると、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方だけでなく、ZENworks データベースからもリスト項目すべてが削除され、結果的に ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未移行) 項目のみを削除するには、[マイグレートする項目] タブから削除するのが最も安全です。

アプリケーションを移行するには、次のシステム要件の条件は移行されません。

- ◆ プロセッサが Pentium Pro、Pentium 1、Pentium 2、Pentium 3、または Pentium 4 である。
- ◆ 従来の ZENworks でプロセッサルールが <、>、<=、または >= に設定されている。
- ◆ オペレーティングシステムが Windows XP または Windows 2000 でない。
- ◆ オペレーティングシステムのバージョンは 5 より下に設定されている。
- ◆ リモートアクセス
- ◆ ターミナルサーバ


注: Windows バンドルが ZENworks Configuration Management に移行された後、バンドルを管理対象デバイスに割り当てると、バンドルは管理対象デバイスで再インストールされます。

9 マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。

- ◆ 他のアプリケーションを移行するには、[56 ページのステップ 3](#) に進みます。
- ◆ イメージを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [[ステップ 2: イメージング](#)] をクリックします。
- ◆ ポリシーを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [[ステップ 3: ポリシー](#)] をクリックします。
- ◆ ゾーン設定を移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [[ステップ 4: ゾーン設定](#)] をクリックします。
- ◆ ワークステーションを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [[ステップ 5: ポリシー](#)] をクリックします。
- ◆ 関連付けを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [[ステップ 6: 関連付け](#)] をクリックします。
- ◆ 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、[83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#) に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

5.6 イメージの移行

ZENworks Adaptive Agent (従来のZENworks エージェントに代わるもの)のインストール後に、移行したワークステーションを再イメージする場合は、イメージを移行する必要はありません。以前のイメージを使用する場合は、移行する必要はありません。

1  (マイグレーションツール設定アイコン) をクリックして、次の手順に従います。

1a ZENworks データベース内の既存のイメージオブジェクトを上書きするには、[全般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書きする] オプションを選択します。

警告: これは、前に移行されたオブジェクトを含め、データベース内の既存のイメージオブジェクトを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。


1b コンテンツサーバの既存のイメージファイルを上書きするには、[イメージング] をクリックし、次に [コンテンツサーバの既存のイメージファイルを上書きする] オプションをオンにします。

イメージファイルがコンテンツサーバにすでに存在するイメージオブジェクトを移行する場合、[コンテンツサーバ上に既存のイメージファイルを上書き] オプションをオンにして、イメージファイルを上書きできます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

1c [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。

2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ2: イメージング] をクリックします。

3 マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。

3a [ソース eDir ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、移行するイメージングオブジェクトを探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

有効なイメージングオブジェクトを含んでいるコンテキストのみがブラウザ用に表示されます。有効なイメージは、標準、スクリプト、およびマルチキャストセッションイメージです。アドオンイメージは移行されません。

3b 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックして、マイグレーションのキューに入れるオブジェクトのフォルダを作成してから、[新規フォルダ] を選択します。

実際の .zmg イメージファイルは、eDirectory イメージング情報を移行するとき、イメージングサーバ上 (現在のプライマリサーバ) にあるイメージングディレクトリにコピーされます。ここで作成するフォルダは、Configuration Management 内でイメージングバンドルを作成するために使用される eDirectory 情報用です。

重要: イメージのマイグレーションを実行する管理者はイメージングファイルを読み取るのに十分なファイル権限を持っている必要があります。

ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内に作成され、ZENworks コントロールセンターではフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。

イメージングオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、イメージングオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成および移行することができます。

また、既存の eDirectory コンテナも、すべてのイメージングオブジェクト (サブコンテナ含む) も、移行できます。コンテナは、eDirectory でそのコンテナの下に存在するイメージングオブジェクトすべてが含まれたフォルダに変換されます。[ソース eDir ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとイメージングオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。

[宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、移行しない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。

- 3c** [ソース eDir ツリー] パネルで、移行するイメージングオブジェクトまたはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。

1つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させて移行する場合は、このときに移行したいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

[マイグレートする項目] タブで、移行する項目数 (宛先ゾーン) パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[マイグレートする項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks Migration Utility は、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

- 4** 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点で移行するイメージングオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているイメージングオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

- 5** [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているイメージングオブジェクトを表示できます。

- 6** 移行キューから項目を削除するには、項目を選択して、**x** アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてを移行するには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、Migration Utility に適用されます。

- ◆ フォーカスは、すぐに [マイグレートする項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- ◆ [ステップ] カラムには、移行中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- ◆ [マイグレーション履歴] タブには、移行されるすべての項目が表示されます。このリストは、項目が移行されると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[マイグレートする項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックして切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないものの移行される項目が含まれるビューを更新できます。
- ◆ [選択] タブには、移行済みオブジェクトすべてが表示され、移行後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次に Migration Utility を開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前に移行した項目を確認できます。

- ◆ マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。

マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#) を参照してください。

- ◆ マイグレーション中に、移行されるイメージごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各イメージが正常に移行されると、削除されます。

- 8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

- 8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前に移行した項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ 移行する他の項目を検出する場合は、[ステップ 3](#) から [ステップ 7](#) までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧にされた項目を削除するには、項目を選択して **x** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前に移行済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターで作成されたか別のワークステーションから移行された項目は黒色テキストで表示されます。削除オプション (x) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に Configuration Management から移行されていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

- 8b** [マイグレートする項目] タブで、移行に失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目を移行するか、[マイグレートする項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

- 8c** 移行しない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[マイグレートする項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[マイグレートする項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだ移行されていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択すると、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方だけでなく、ZENworks データベースからもリスト項目すべてが削除され、結果的に ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未移行) 項目のみを削除するには、[マイグレートする項目] タブから削除するのが最も安全です。

- 9** マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。
- ◆ 他のアプリケーションを移行するには、[61 ページのステップ 3](#)に進みます。
 - ◆ ポリシーを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 3: ポリシー] をクリックします。
 - ◆ ゾーン設定を移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 4: ゾーン設定] をクリックします。
 - ◆ ワークステーションを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 5: ポリシー] をクリックします。
 - ◆ 関連付けを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 6: 関連付け] をクリックします。
 - ◆ 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、[83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#)に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。


注: ZENworks 11 Configuration Management SP2 に移行後は、novell-proxydhcp サービスを使用して PXE モードでイメージング操作を行う必要があります。イメージング操作の実行に BOOTP ポートの 66 と 67 を使用すると、操作は失敗し、エラーになります。詳細

は、「Unable to connect to Preboot Server. The Product license might have expired(プレブートサーバに接続できません。製品ライセンスの期限が切れている可能性があります)」(『ZENworks 11 SP2 Preboot Services および Imaging リファレンス』)を参照してください。

5.7 ポリシーの移行

Windows グループポリシーを移行する前に、[Network location of existing/new Group Policies(既存または新規のグループポリシーのネットワークの場所)] で指定されたフォルダに、グループポリシーファイル以外のファイルが含まれていないことを確認します。

ポリシーを eDirectory から Configuration Management に移行するには、次の手順を実行します。

- 1  ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、次の手順を実行します。

- 1a ZENworks データベースの既存のポリシーオブジェクトを上書きするには、[一般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにします。


警告: これは、前に移行されたオブジェクトを含め、データベース内の既存のポリシーオブジェクトを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

[アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行します] オプションを使用すると、オブジェクト(アプリケーションまたはポリシー)をサンドボックスとして移行できます。このオプションはデフォルトで選択されています。

- 1b Launcher Configuration ポリシーの割り当て作成をスキップするには、[ポリシー] オプションを選択して、チェックボックスをオンにして、オプションを有効にします。

Launcher Configuration 設定を eDirectory から移行する場合は、これらの設定は、Configuration Management 内の Launcher Configuration ポリシーに変換されます。マイグレーション中に、同一オブジェクトから新しい Launcher Configuration ポリシーへの割り当ては、割り当てのスキップを選択して [オプション] ダイアログボックスでこの機能がオフになるまでは、自動的に作成されます。

- 1c [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。
- 2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ3: ポリシー] をクリックします。
- 3 マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。
 - 3a [ソース eDir ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、移行するポリシーオブジェクトを探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

表示される eDirectory 情報は、移行している情報のタイプに従ってフィルタ処理されます。したがって、選択したタイプに対して移行できるコンテキストおよびオブジェクトをブラウズするだけで済みます。

- 3b** 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックし、マイグレーションの待ち行列に入れるオブジェクトのフォルダを作成して、[新規フォルダ] を選択します。

ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内に作成され、ZENworks コントロールセンターではフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。

ポリシーオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、ポリシーオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成および移行することができます。

また、既存の eDirectory コンテナも、すべてのポリシーオブジェクト (サブコンテナ含む) も、移行できます。コンテナは、コンテナの下にある eDirectory に存在するすべてのポリシーオブジェクトを含むフォルダに変換されます。[ソース eDir ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとポリシーオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。

[宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、移行したくない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。

- 3c** [ソース eDir ツリー] パネルで、移行するポリシーオブジェクト、パッケージ、またはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。1 つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させて移行する場合は、このときに移行したいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

[マイグレートする項目] タブで、移行する項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[マイグレートする項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks Migration Utility は、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

ポリシーパッケージをキューにドラッグする場合は、そのポリシーのみが [宛先ゾーン] パネル内のキューに入ります。ポリシーパッケージは、Configuration Management では使用されません。代わりに、ポリシーはタイプによってグループ化されます。

Launcher Configuration 設定を eDirectory から移行する場合は、これらの設定は、Configuration Management 内の Launcher Configuration ポリシーに変換されます。マイグレーション中に、同一オブジェクトから新しい Launcher Configuration ポ

リシーへの割り当ては、割り当てのスキップを選択して [オプション] ダイアログボックスでこの機能がオフになるまでは、自動的に作成されます (ステップ 1b 参照)。

- 必要に応じてステップ 3 を繰り返し、この時点で移行するポリシーオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているポリシーオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

- [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているポリシーオブジェクトを表示できます。

- マイグレーションキューから項目を削除するには、項目を選択して、**x** アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてを移行するには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、Migration Utility に適用されます。

- フォーカスは、すぐに [マイグレートする項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- eDirectory 内のポリシーパッケージの一部であったポリシーは、キューに入れられ、それぞれの Configuration Management タイプに個別に移行されます。
- [ステップ] カラムには、移行中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- [マイグレーション履歴] タブには、移行されるすべての項目が表示されます。このリストは、項目が移行されると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[マイグレートする項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックして切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないものの移行される項目が含まれるビューを更新できます。
- [選択] タブには、移行済みオブジェクトすべてが表示され、移行後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次に Migration Utility を開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前に移行した項目を確認できます。

- ◆ マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。
マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#)を参照してください。
- ◆ マイグレーション中に、移行されるポリシーごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各ポリシーが正常に移行されると、削除されます。

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前に移行した項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ 移行する他の項目を検出する場合は、[ステップ 3](#) から [ステップ 7](#) までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧にされた項目を削除するには、項目を選択して **x** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前に移行済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターで作成されたか別のワークステーションから移行された項目は黒色テキストで表示されます。削除オプション (**x**) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に Configuration Management から移行されていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

8b [マイグレートする項目] タブで、移行に失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目を移行するか、[マイグレートする項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

8c 移行しない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[マイグレートする項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[マイグレートする項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだ移行されていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択すると、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方だけでなく、ZENworks データベースからもリスト項目すべてが削除され、結果的に ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未移行) 項目のみを削除するには、[マイグレートする項目] タブから削除するのが最も安全です。

9 マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。


- ◆ 他のポリシーを移行するには、[65 ページのステップ 3](#)に進みます。

- ◆ ゾーン設定を移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 4: ゾーン設定] をクリックします。
- ◆ ワークステーションを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 5: ポリシー] をクリックします。
- ◆ 関連付けを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [ステップ 6: 関連付け] をクリックします。
- ◆ 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

5.8 管理ゾーン設定の移行

設定が ZENworks Configuration Management の管理ゾーン設定に移行されると、DNS 設定のネームサーバ以外のすべてのゾーン設定が上書きされます。従来の ZENworks から移行された名前サーバは、ZENworks Configuration Management の [名前サーバ] リストの既存のエントリに追加されます。


eDirectory のデータを環境設定管理の管理ゾーン設定に移行するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks データベースにある既存の管理ゾーン設定を上書きするには、 ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、[一般] オプションを選択し、[すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにしてオプションをオンにして、[設定の保存] をクリックしてダイアログボックスを終了します。

警告: これを選択すると、すでに移行済みの設定を含め、データベース内の既存の管理ゾーン設定がすべて上書きされます。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

現在は管理ゾーン設定特有のグローバルなマイグレーションオプションはありません。

- 2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ 4: ゾーン設定] をクリックします。
- 3 マイグレーションをモデル化するには、[ソース eDir ツリー] パネルにアクセスし、次に eDirectory コンテキストに移動して、移行する情報を探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

重要: Novell Application Launcher 設定またはイメージングポリシーの個別のコンポーネントが表示されるため、すべての設定またはポリシー情報を移行するのではなく選択して移行することができます。

- 4 必要に応じてステップ 3 を繰り返し、この時点で移行するゾーン設定へのすべての情報を探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っている項目はすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

- 5 [宛先ゾーン] パネルでの選択内容を確認します。

- 6 マイグレーションキューから項目を削除するには、項目を選択して、**x**アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告： 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7 [宛先ゾーン] パネルにグレー表示されているすべての項目を移行するには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後に、Migration Utility に適用されます。

- ◆ フォーカスは、すぐに [マイグレートする項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- ◆ [ステップ] カラムには、移行中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- ◆ [マイグレーション履歴] タブには、移行されるすべての項目が表示されます。このリストは、項目が移行されると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[マイグレートする項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックして切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないものの移行される項目が含まれるビューを更新できます。
- ◆ [選択] タブには、移行済みオブジェクトすべてが表示され、移行後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次に Migration Utility を開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前に移行した項目を確認できます。

- ◆ マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。

マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#) を参照してください。

- 8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

- 8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前に移行した項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ 移行する他の項目を検出する場合は、[ステップ 3](#) から [ステップ 7](#) までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧にされた項目を削除するには、項目を選択して **x** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前に移行済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターで作成されたか別の eDirectory オブジェクトから移行された項目は黒色テキストで表示されます。削除オプション (x) は、どちらにも使用できます。したがって、まだ Configuration Management から移行されていない既存の項目を削除することもできます。

8b [マイグレートする項目] タブで、移行に失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目を移行するか、[マイグレートする項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

8c 移行しない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[マイグレートする項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[マイグレートする項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだ移行されていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択すると、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方だけでなく、ZENworks データベースからもリスト項目すべてが削除され、結果的に ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未移行) 項目のみを削除するには、[マイグレートする項目] タブから削除するのが最も安全です。

9 マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。


- ◆ その他の情報を Management Zone 設定に移行するには、[72 ページのステップ 3](#)に進みます。
- ◆ 関連付けを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [[ステップ 6: 関連付け](#)] をクリックします。
- ◆ 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、[83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#)に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

5.9 ワークステーションの移行

Novell eDirectory から保持するワークステーションへの関連付けまたはワークステーション GUID がない場合や、ZENworks コントロールセンターを使用してワークステーションを検出し、Adaptive Agent を展開することによって、ワークステーションを ZENworks 管理ゾーンに管理対象デバイスとして設定する場合、ワークステーションのマイグレーションはスキップします。

ワークステーションを移行してワークステーションへの関連付けまたはワークステーション GUID を保持する場合や、これらのワークステーションのイメージをすでに作成済みの場合は、Adaptive Agent をインストールした後に再イメージします。詳細については、[83 ページのセクション 5.13 「移行したワークステーションのイメージの作成」](#)を参照してください。

ワークステーションを eDirectory から Configuration Management に移行するには、次の手順を実行します。


- 1 ZENworks データベースにある既存のワークステーションオブジェクトを上書きするには、 ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、[一般] オプションを選択し、[すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにしてオプションをオンにして、[設定の保存] をクリックしてダイアログボックスを終了します。

警告: これは、前に移行されたオブジェクトを含め、データベース内の既存のワークステーションオブジェクトを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

現在はワークステーション特有のグローバルなマイグレーションオプションはありません。

- 2 [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ5: ワークステーション] をクリックします。
- 3 マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。

- 3a [ソース eDir ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、移行するワークステーションオブジェクトを探します。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトのリストを停止するには、 のオブジェクトのリストを停止します。

表示される eDirectory 情報は、移行している情報のタイプに従ってフィルタ処理されます。したがって、選択したタイプに対して移行できるコンテキストおよびオブジェクトをブラウズするだけで済みます。

- 3b 必要に応じて、[宛先ゾーン] パネルの任意の場所を右クリックし、マイグレーションの待ち行列に入れるオブジェクトのフォルダを作成して、[新規フォルダ] を選択します。

ネストを含め、必要な数のフォルダを作成できます。この構造は、ZENworks データベース内に作成され、ZENworks コントロールセンターではフォルダとして表示可能です。ただし、[今すぐ移行] ボタンをクリックするまではフォルダは作成されません。

ワークステーションオブジェクトをフォルダ内のキューに入れる前に、ワークステーションオブジェクトのフォルダ構造を決定して、そのフォルダを作成および移行することができます。

重要: 既存の eDirectory コンテナとワークステーションオブジェクトすべてを移行することをお勧めします (サブコンテナ含む)。これによって、デバイス関連付けの GUID を保持できます。

キューに入っている eDirectory コンテナは、コンテキストの下にある eDirectory に存在するすべてのワークステーションオブジェクトを含むフォルダに変換されます。[ソース eDir ツリー] パネル内のコンテナを選択して [宛先ゾーン] パネルにドラッグする場合は、すべてのサブコンテナとワークステーションオブジェクトも、それぞれのフォルダ内の [宛先ゾーン] パネルに置かれます。

[宛先ゾーン] パネルのコンテナを待ち行列に入れた後で、項目を選択し、右クリックして、[選択した項目の削除] を選択することによって、移行したくない待ち行列に入れられた項目を個別に削除できます。削除操作を確認するメッセージが表示されます。

- 3c** [ソース *eDir* ツリー] パネルで、移行するワークステーションオブジェクトまたはコンテナを選択して、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。1 つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させて移行する場合は、このときに移行したいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

[マイグレートする項目] タブで、移行する項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[マイグレートする項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks Migration Utility は、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

- 4** 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点で移行するワークステーションオブジェクトすべてを探してキューに入れます。

重要: [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っているワークステーションオブジェクトはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

- 5** [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

フォルダに移動し、マイグレーションのキューに入っているワークステーションオブジェクトを表示できます。

- 6** マイグレーションキューから項目を削除するには、項目を選択して、**x** アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- 7** サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてを移行するには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後、Migration Utility に適用されます。

- ◆ フォーカスは、すぐに [マイグレートする項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- ◆ [ステップ] カラムには、移行中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- ◆ [マイグレーション履歴] タブには、移行されるすべての項目が表示されます。このリストは、項目が移行されると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[マイグレートする項目] と [マイグレーション履歴] のタブをクリックして切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないものの移行される項目が含まれるビューを更新できます。
- ◆ [選択] タブには、移行済みオブジェクトすべてが表示され、移行後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次に Migration Utility を開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前に移行した項目を確認できます。

- ◆ マイグレーションに失敗したオブジェクトは、淡色表示のアイコンで表示されて続行されます。
マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#) を参照してください。
- ◆ マイグレーション中に、移行されるワークステーションごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各ワークステーションが正常に移行されると、削除されます。

重要： 移行済みワークステーションは、ZENworks コントロールセンターの [デバイス] タブの [ワークステーション] セクションにすぐには表示されません。これらのワークステーションは ZENworks コントロールセンターの [展開可能デバイス] パネルに一覧表示され、[デバイス] タブに表示されるには Adaptive Agent が展開されている必要があります。Adaptive Agent の移行先のワークステーションへの展開については、[83 ページのセクション 5.12 「管理する移行済みワークステーションの設定」](#) を参照してください。

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前に移行した項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ 移行する他の項目を検出する場合は、[ステップ 3](#) から [ステップ 7](#) までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧にされた項目を削除するには、項目を選択して **x** をクリックします。

警告： [宛先ゾーン] パネルでは、以前に移行済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターで作成されたか別のワークステーションから移行された項目は黒色テキストで表示されます。削除オプション (**x**) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に Configuration Management か

ら移行されていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

- 8b** [マイグレートする項目] タブで、移行に失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目を移行するか、[マイグレートする項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

- 8c** 移行しない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[マイグレートする項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。


これによって、[マイグレートする項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだ移行されていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択すると、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方だけでなく、ZENworks データベースからもリスト項目すべてが削除され、結果的に ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除] を使用して、キュー済み (未移行) 項目のみを削除するには、[マイグレートする項目] タブから削除するのが最も安全です。

- 9** マイグレーション結果に満足したら、次のいずれかに進みます。
- 他のワークステーションを移行するには、[72 ページのステップ 3](#) に進みます。
 - 関連付けを移行するには、[マイグレーションタスク] フィールドで [[ステップ 6: 関連付け](#)] をクリックします。
 - 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、[83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#) に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

5.10 関連付けの移行

バンドル用のユーザ関連付けおよびワークステーション関連付け、ポリシー用のユーザ関連付けおよびワークステーション関連付け、およびイメージ用のワークステーション関連付けを移行できます。

- 1**  ([マイグレーションツール設定] アイコン) をクリックして、次の手順を実行します。

- 1a** ZENworks データベースの既存の関連付けを上書きするには、[一般] タブをクリックし、次に [すでに存在するオブジェクトを上書き] オプションをオンにします。

警告: これは、前に移行されたオブジェクトを含め、データベース内の既存の関連付けを上書きします。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。


- 1b** 関連付けのマイグレーションに使用可能なオプションにアクセスするには、[関連付け] をクリックし、次に希望の設定を指定します。

設定	説明
関連付けられたオブジェクトが存在しない場合は、マイグレーションを中止して、適切なマイグレーションタスクに転送してオブジェクトの作成を促します。	<p>関連付けるオブジェクトがZENworks データベースに存在しない場合はマイグレーションを中止し、適切な [マイグレーションタスク] ステップに移行してオブジェクトのマイグレーションを行います。</p> <p>必要なオブジェクトを移行したら、[ステップ6: 関連付け] に戻り、[今すぐ移行] をクリックして関連付けの移行を再開します。</p> <p>このオプションは、数個の項目のみを移行する場合で、すぐに関連付けの失敗を処理したい場合に便利です。</p> <p>無人マイグレーションを実行する場合は、このオプションを選択しないでください。</p>
一致するエンティティを検索するマイグレーション先のユーザソースコンテキストを指定します。	<p>グループとコンテナ関連付けのマイグレーション中に、マイグレーション先のユーザソース内で一致するエンティティを検索するためのコンテキストを指定できます。</p> <p>たとえば、マイグレーション先のユーザソースが migration.orgunit.org.com で、コンテキストを OU1/OU2/users として指定すると、ユーティリティは migration.orgunit.org.com/OU1/OU2/users 内で一致するエンティティを検索します。</p> <p>コンテキストを指定しなかった場合、マイグレーション先のユーザソース全体、すなわち migration.orgunit.org.com で検索が行われます。</p>

- 1c** [設定の保存] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。
- 2** [マイグレーションタスク] フィールドにある [ステップ6: 関連付け] をクリックします。
- 3** マイグレーションをモデル化するには、次の手順を実行します。
- 3a** [次のオブジェクトを表示] と [追加] ドロップダウンリストで希望するオプションを選択します。

このオプションの組み合わせによって、宛先ゾーンにドラッグして表示される関連付けが決定され、不適当な関連付けに警告を表示するかどうか決定されます。警告は、[マイグレートする項目] タブと [マイグレーション履歴] タブのカラムに表示されます。

移行できる関連付けは、関連 eDirectory オブジェクトが以前に移行されているかどうかによって異なります。マイグレーションの資格のある関連付けを表示できます。また、関連付けがマイグレーションできるかできないかの表示もでき、移行できない関連付けについての警告ありまたはなしで表示することもできます。

次のオブジェクトを表示: これらのオプションによって、] パネルでこの時点で検索する関連付けを選択できます。[*Display objects that are (次のオブジェクトを表示)*] オプションから別のオプションに変更すると、[宛先ゾーン] パネルへの関連付けの追加を続行でき、表示するオブジェクトまたは一度に関連付けのグループを移行できます。[ソース eDir ツリー] のオブジェクトの、 をクリックします。

次のオプションによって、表示される関連付けが決定されます。

オプション	目的
バンドル<--> ユーザ	バンドルとユーザまたはユーザグループの eDirectory にある既存の関連付けのみが表示されます。 これらの関連付けを移行する前に、ユーザソースを ZENworks コントロールセンターで設定する必要があります。
バンドル<--> ワークステーション	バンドル、ワークステーション、ワークステーショングループ、イメージ、およびワークステーションの eDirectory に存在する関連付けのみを表示します。
ポリシー<--> ユーザ	ポリシーとユーザまたはユーザグループの eDirectory での既存の関連付けのみが表示されます。 これらの関連付けを移行する前に、ユーザソースを ZENworks コントロールセンターで設定する必要があります。
ポリシー<--> ワークステーション	ポリシー、ワークステーション、およびワークステーショングループの eDirectory に存在する関連付けのみを表示します。
ポリシー、バンドル、ユーザ、<--> ワークステーション	ポリシー、バンドル、ユーザ、ユーザグループ、ワークステーション、ワークステーショングループ、およびイメージの既存のすべての eDirectory 関連付けが表示されます。 ユーザ関連の関連付けを移行する前に、ユーザソースを ZENworks コントロールセンターで設定する必要があります。

追加: これらのオプションは、[次のオブジェクトを表示] フィールドで選択した組み合わせに従って、次の手順を実行します。

オプション	目的
マイグレーションの資格ありまたは資格なし (警告なし)	選択したオブジェクトの間の関連付けについては、この組み合わせに、警告なしで、資格ありと資格なしの関連付けが表示されます。 これは、チェックの必要がないため最も高速で、無人マイグレーションプロセスが実行されます。

オプション	目的
マイグレーションの資格あり	<p>マイグレーションの資格がある選択済みオブジェクトの間の関連付けのみが表示されます。</p> <p>マイグレーション元とユーザソースが同じ場合、ユーティリティは各項目がキューされるたびに検証する必要があるため、これはもっと遅い方法です。失敗した項目のログを確認して、移行できなかった理由を解決することをお勧めします。</p>
マイグレーションの資格ありまたは資格なし (警告表示)	<p>選択済みオブジェクトの間の関連付けについては、この組み合わせに、警告とともに、資格ありと資格なしの関連付けが表示されます。</p> <p>マイグレーション元とユーザソースが同じ場合、キューされた各項目ごとにチェックが必要で、警告に対して応答するためにマイグレーションを監視する必要があるため、これはもっとも遅い方法です。</p>

宛先ユーザソース : ZENworks Configuration Management で使用できるユーザソースを一覧表示します。デフォルトで、マイグレーションソースとして一覧にされているユーザソースが選択されます。

- 3b** [ソース *eDir* ツリー] パネルで、eDirectory コンテキストに移動して、関連付けのあるオブジェクトを見つけて、[宛先ゾーン] パネルにドラッグします。

[一覧表示範囲] オプションで一覧される関連付けの範囲を指定します。この範囲はデフォルトで 1 ~ 100 で指定されます。

これは、マイグレーションの項目をキューに入れます。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、複数の項目を選択できます。1つのパネルから別のパネルに項目をドラッグすると、[宛先ゾーン] パネルにリストされた項目が自動的に保存されます。

項目を複数回ドラッグする場合は、一度だけキューに入ります。

増加させて移行する場合は、このときに移行したいオブジェクトのみをキューに入れる必要があります。[宛先ゾーン] パネルにキュー済みのすべての項目は、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

[マイグレートする項目] タブで、移行する項目数 (宛先ゾーン] パネルにコピー済み) は、タブのラベルの括弧内に表示されます。

[マイグレートする項目] タブにある [マイグレーションステータス] フィールドには、マイグレーションについて選択した項目に関連する情報が表示されます。たとえば、ZENworks Migration Utility は、eDirectory 名の文字が Configuration Management で使用できない場合に、Configuration Management 内のオブジェクト名を調整することがあります。たとえば、コロン (:) は、アンダースコア () 文字で置換されます。

- 4** 必要に応じて **ステップ 3** を繰り返し、この時点で移行する関連付けすべてを探してキューに入れます。


重要 : [宛先ゾーン] パネル内のキューに入っている関連付けはすべて、[今すぐ移行] ボタンをクリックすると、移行されます。

- 5** [宛先ゾーン] パネルでの選択を確認します。

[一覧表示範囲] オプションで一覧される関連付けの範囲を指定します。範囲はデフォルトで 1 ~ 10 で指定されます。

[名前] カラムには、キューされている関連付け名とともに関連付けが表示されません。<-> 文字は関連付けを表し、オブジェクトの名前は eDirectory 内で関連付けられます。この情報は、完全に区別されるオブジェクト名とともに [一意な識別子] カラムで繰り返されます。

関連付け対象の各オブジェクト ([次のオブジェクトを表示] と [追加] フィールドで選択することにより決まります。ステップ 3 を参照) が ZENworks データベースに存在しない場合、関連付けは移行できません。ステップ 1b で選択して、マイグレーション中にこれを解決するようメッセージが表示された場合は、このインスタンスに注意を払うことができます。それ以外の場合は、マイグレーションは続行し、[マイグレートする項目] タブで検出できます。

- 項目を削除して関連付けしないようにするには、項目を選択して、 アイコンをクリックします。

Ctrl と矢印キーまたは Shift と矢印キーを使用して、削除する複数の項目を選択できます。これには、フォルダとそのコンテンツが含まれます。

マイグレーションのキューに入っている項目は、アイコンとテキストが淡色表示されています。淡色表示の項目を選択して削除する場合は、これはキューから削除されるだけです。

警告: 暗い灰青色または黒色のテキストで色付けされている項目を選択した場合は、ZENworks データベースから削除され、今後 ZENworks コントロールセンターでは使用できなくなります。

- サブフォルダに含まれる淡色表示の項目すべてを含め、[宛先ゾーン] パネルに表示されている淡色表示の項目すべてを移行するには、[今すぐ移行] ボタンをクリックします。

次の情報は、マイグレーションプロセス中またはその後、Migration Utility に適用されます。

- フォーカスは、すぐに [マイグレートする項目] に移動されます。ここで、マイグレーションの連続プロセスを表示できます。
- [ステップ] カラムには、移行中の各項目の進行バーが表示されます。全体の進行状況バーは画面の一番下にあります。
- [マイグレーション履歴] タブには、移行されるすべての項目が表示されます。このリストは、項目が移行されると動的に更新されます。マイグレーションプロセス中に、[マイグレートする項目] と [マイグレーション履歴] のタブを安全にクリックで切り替えることができます。また、タブのパネルの任意の場所を右クリックして、[更新] を選択すると、まだ表示されていないものの移行される項目が含まれるビューを更新できます。
- [選択] タブには、移行済み関連付けすべてが表示され、移行後には、暗い灰青色のテキストで、[ソース eDir ツリー] と [宛先ゾーン] パネルに表示されます。

暗い灰青色で表示されたままになるため、次に Migration Utility を開いて [ソース eDir ツリー] コンテキストと [宛先ゾーン] フォルダに移動した場合に、前に移行した項目を確認できます。

- 関連付けオブジェクトが Configuration Management に存在しないため、マイグレーションに失敗した関連付けは、続行され、淡色表示のアイコンに表示されます。

マイグレーションに失敗した項目の処理方法は、[ステップ 8](#)を参照してください。

- ◆ マイグレーション中に、移行される関連付けごとに一時作業フォルダがワークステーションに作成されます。これらのフォルダは、各関連付けが正常に移行されると、削除されます。
- ◆ グループとコンテナの関連付けのマイグレーション中、マイグレーション先のユーザソースのグループとコンテナに一致するエンティティが複数ある場合は、関連付けの移行先のエンティティを選択するように促されます。

8 マイグレーションの完了後には、必要に応じて次の手順を実行します。

8a [選択] パネルの両方にある暗い灰青色の項目を確認して、マイグレーションするために他の項目をキューに入れる必要があるか、前に移行した項目を [宛先ゾーン] パネルから削除する必要があるかを決定します。

また、[マイグレーション履歴] タブを使用して、この情報を検出できます。

- ◆ 移行する他の項目を検出する場合は、[ステップ 3](#)から[ステップ 7](#)までを繰り返します。
- ◆ [宛先ゾーン] パネルに一覧にされた項目を削除するには、項目を選択して **x** をクリックします。

警告: [宛先ゾーン] パネルでは、以前に移行済みのデータは暗い灰青色で、ZENworks コントロールセンターで作成されたか別のワークステーションから移行された項目は黒色テキストで表示されます。削除オプション (**x**) は、どちらにも使用できます。したがって、以前に Configuration Management から移行されていない既存の項目を削除することもできます。これには、ZENworks コントロールセンター内のフォルダとその下に含まれるすべてのデータが含まれます。

8b [マイグレートする項目] タブで、移行に失敗した各項目ごとに [失敗- ログ表示] ボタンをクリックして、アクションの最適のコースを決定します。問題を修復または項目を移行するか、[マイグレートする項目] タブから削除できます。この場合は、[宛先ゾーン] パネル内のキューからも削除されます。

失敗した項目のみを表示するには、パネル内のどこかで右クリックして、[正常に削除] を選択して、リスト項目をフィルタします。このリストは、現在のタスクでのみ保持されます。

8c 移行しない項目が失敗した場合は、[宛先ゾーン] パネルで、キューされた項目のみ (淡色表示のまま) をキューから削除できます。[マイグレートする項目] タブのどこかで右クリックして [すべての項目を削除] を選択します。

これによって、[マイグレートする項目] タブのリストは空になります。また、[宛先ゾーン] パネルのリストからまだ移行されていないキュー済み項目のみも削除されます。

警告: 代わりに [宛先ゾーン] パネルの [すべての項目を削除] を選択すると、[宛先ゾーン] パネルと [マイグレーション履歴] タブの両方だけでなく、ZENworks データベースからもリスト項目すべてが削除され、結果的に

ZENworks コントロールセンターからも削除されます。[すべての項目を削除]を使用して、キュー済み(未移行)項目のみを削除するには、[マイグレートする項目] タブから削除するのが最も安全です。

- 9 完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

5.11 同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションの移行

同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションを移行する前に、次のことを実行してください。

- 1 その他のすべてのアプリケーションの実行に必要な、ベースアプリケーションを特定します。
- 2 ベースアプリケーションを移行します。
- 3 その他のアプリケーションを移行します。

たとえば、同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションが 3 つ (A、B、および C) あるとします。アプリケーション A は Microsoft Office をインストールし、アプリケーション B は Microsoft Word を起動し、アプリケーション C は Microsoft Excel を起動します。これらのアプリケーションを移行するには、ベースアプリケーションである A を最初に移行し、その後アプリケーション B と C を移行します。

すでに移行済みのアプリケーションと同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションを移行するとき、次のオプションの選択が求められます。

- ◆ **移行するアプリケーションのシステム要件として、ベースアプリケーションを設定する (オプション 1):** 移行するアプリケーションのシステム要件として、ベースアプリケーションを設定できます。
- ◆ **同じ GUID を持ち、マイグレーションキュー内のすべてのアプリケーションに設定を適用する (オプション 2):** オプション 1 で選択した設定を、マイグレーションキュー内の同じアプリケーション GUID を持つすべてのアプリケーションに適用できます。

次の表に、オプションを選択または選択解除したときの詳細を示します。

オプション 1	オプション 2	説明
✓	✓	ベースアプリケーション (アプリケーション A) を移行するアプリケーション (アプリケーション B または C のうち、移行される方) のシステム要件として追加します。 オプション 2 が選択されているため、ベースアプリケーション (アプリケーション A) も、マイグレーションキュー内の同じアプリケーション GUID を持つその他すべてのアプリケーションのシステム要件として追加されます。

オプション 1	オプション 2	説明
------------	------------	----

✓		ベースアプリケーション (アプリケーション A) を移行するアプリケーション (アプリケーション B または C のうち、移行される方) のシステム要件として追加します。
---	--	---

オプション 2 が選択されていないため、オプション 1 で選択した設定は、マイグレーションキュー内の同じアプリケーション GUID を持つ他のアプリケーションには適用されません。このため、該当するアプリケーションが移行されると、このダイアログボックスがもう一度表示されます。

✓		オプション 1 が選択されていないため、ベースアプリケーション (アプリケーション A) は移行するアプリケーションのシステム要件として追加されません。
---	--	--

オプション 2 が選択されているため、オプション 1 で選択した設定はその他のアプリケーションに適用されます。このため、ベースアプリケーション (アプリケーション A) は、マイグレーションキュー内の同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションすべてのシステム要件として追加されません。

		オプション 1 が選択されていないため、ベースアプリケーション (アプリケーション A) は移行するアプリケーションのシステム要件として追加されません。
--	--	--

オプション 2 が選択されていないため、オプション 1 で選択した設定は、マイグレーションキュー内の同じアプリケーション GUID を持つ他のアプリケーションには適用されません。このため、該当するアプリケーションが移行されると、このダイアログボックスがもう一度表示されます。

同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションはすべて、1 つのアプリケーションセットに属します。複数のアプリケーションセットの移行を選択した場合、各アプリケーションセットにベースアプリケーションを移行してから、セット内のその他のアプリケーションを移行する必要があります。

たとえば、同じアプリケーション GUID を持つアプリケーションが 2 つ (X、Y) あるとします。アプリケーション X は OpenOffice をインストールし、アプリケーション Y は OpenOffice Writer をインストールします。アプリケーション A、B、C は 1 つのアプリケーションセットに属します。アプリケーション X と Y は別のアプリケーションセットに属します。

両方のアプリケーションセットを移行するには、次の手順を実行します。

- 1 最初のアプリケーションセットのベースアプリケーションである、A を移行します。
- 2 2 番目のアプリケーションセットのベースアプリケーションである、X を移行します。
- 3 両方のアプリケーションセットの残りのアプリケーションを移行します。

5.12 管理する移行済みワークステーションの設定

オブジェクトを ZENworks Configuration Management で管理するためワークステーションのオブジェクトを移行した場合、ZENworks Adaptive Agent をインストールする必要があります。

移行したワークステーションに Adaptive Agent をインストールする方法の詳細については、「[Agent の展開](#)」(『ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート』) を参照してください。

エージェントを ZENworks Adaptive Agent に更新したワークステーションを再イメージするには、[83 ページのセクション 5.13 「移行したワークステーションのイメージの作成」](#)を参照してください。

完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、[83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#)に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

5.13 移行したワークステーションのイメージの作成

従来の ZENworks エージェントを持つワークステーションを移行する場合、Adaptive Agent をインストールした後にこれらのワークステーションのイメージを取得してください。

更新済みワークステーションのイメージングの詳細については、「[イメージングデバイス](#)」(『[ZENworks 11 SP2 Preboot Services および Imaging リファレンス](#)』)を参照してください。

完了したすべての eDirectory オブジェクトと関連付けマイグレーションがある場合は、[83 ページのセクション 5.14 「ZENworks の従来のインストールの管理」](#)に進んで、従来の ZENworks インストールをクリーンアップします。

5.14 ZENworks の従来のインストールの管理

マイグレーションの完了後、適合するか確認して、従来の ZENworks ソフトウェアを削除できます。ZENworks の以前のバージョンのアンインストールについては、従来の ZENworks マニュアルを参照してください。

ただし、関連付けを移行するために Configuration Management のユーザが必要な場合、または Novell Client のユーザが必要な場合は、ユーザオブジェクトのある eDirectory の稼働中のインストールを保持する必要があります。

ZENworks Configuration Management では、eDirectory クリーンアップは提供されません。

マイグレーションデータ

A

次のセクションでは、マイグレーションタイプごとに、移行されるものとされないものについて詳しく説明します。

- ◆ 85 ページのセクション A.1 「アプリケーション」
- ◆ 88 ページのセクション A.2 「イメージ」
- ◆ 89 ページのセクション A.3 「ポリシー」
- ◆ 91 ページのセクション A.4 「管理ゾーンの設定」
- ◆ 93 ページのセクション A.5 「ワークステーション」
- ◆ 93 ページのセクション A.6 「関連付け」

A.1 アプリケーション

アプリケーションは ZENworks Configuration Management に固有のアクションでバンドルとして移行されます。たとえば、レジストリの変更があるアプリケーションは、レジストリの編集アクションでバンドルとして移行されます。

いくつかの機能は移行されますが、されないものもあります。また新しい機能と置き換わるものもあります。85 ページの表 A-1 は、移行されない機能を一覧表示しています。コメント欄は移行されない理由と Configuration Management に存在する従来の機能の代替機能があるかどうかを示します。

移行されない Novell Application Launcher 設定については、89 ページのセクション A.3 「ポリシー」を参照してください。

表 A-1 Configuration Management に移行されないアプリケーション機能

機能	コメント
ACL	Configuration Management はアクセス制御に新しいセキュリティモデルを使用します。
自動起動機能	この機能を使用すると、Novell Application Launcher は自身をスタートメニューに追加して、ユーザがログインしたときに自動的に起動するようになります。これは ZENworks Adaptive Agent で処理されるようになりました。
使用可能スケジュール	これは関連付けが移行されたときに移行されます。つまり、アプリケーションのすべてのスケジュールに、そのアプリケーションへのそれぞれの直接関連付け用の特定のスケジュールがあります。
BITS サポート	BITS は Configuration Management ではサポートされていません。管理者はスロットルを手動でオンにすることができます。
プリンタポートのキャプチャ	起動スクリプトで実行できます。終了スクリプト内でポートをキャプチャ解除することができます。

機能	コメント
ディレクトリのコピー	このアクションは、ファイルバンドルのディレクトリのコピーカテゴリを使用して、ZENworks コントロールセンターに手動で作成する必要があります。
Deframe 設定	Configuration Management は簡易 RDP および ICA セッションのみをサポートします。
接続解除可能	この機能を使用すると、管理者はワークステーションが接続解除された場合にデスクトップにアプリケーションを表示しないように設定することができます。Configuration Management の同等のシステム要件を使用します。
ディスプレイフォルダリスト	この機能は管理者が複数のディスプレイフォルダ内のアプリケーションのショートカットを配置することができます。Configuration Management は、フォルダへのショートカットの配置のみを許可します。したがって、Configuration Management は最初のフォルダのみを移行します。
ドライブマッピング	起動スクリプトで実行できるようになりました。終了スクリプト内でドライブをアンマップできます。
障害対策	新しいコンテンツシステムはゾーン全体ベースでこれを自動的に行います。
ワークステーションが関連付けられている場合のユーザとして強制実行	Configuration Management ではサポートされていません。
強制実行待機	この機能はアプリケーションチェーンによって置き換えられます。
粒度インストールファイルコントロール	この機能は、インストール時にどのファイルがコピーされたかを ConsoleOne 内のマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に、「Request Confirm」とマークされたファイルのみをコピーするように通知できます。MSI はきめ細かな設定 (ファイル単位) ができないため、この機能はアプリケーションが MSI インストールアクションでバンドルとして移行された場合は移行できません。
粒度アンインストールファイルコントロール	この機能は、どのファイルをアンインストール時に削除するかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「Request Confirm」というマークが付いているファイルのみをアンインストールするように通知することができます。MSI はきめ細かな (ファイルごと) 設定を許可しないため、この機能は移行できません。
粒度インストールレジストリコントロール	この機能は、どのレジストリ設定をインストール時に作成するかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「Registry Append」というマークが付いているレジストリのみを作成するように通知することができます。MSI はきめ細かな (レジストリ設定ごと) コントロールを許可しないため、この機能は移行できません。
粒度アンインストールレジストリコントロール	この機能は、どのレジストリ設定をアンインストール時に削除するかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「Registry Append」というマークが付いているレジストリのみをアンインストールするように通知することができます。MSI はきめ細かな (レジストリ設定ごと) コントロールを許可しないため、この機能は移行できません。

機能	コメント
粒度 install.INI コントロール	この機能は、どの INI ファイルエントリがインストール時に作成されたかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「create add to section」というマークが付いている INI エントリを作成するように通知することができます。MSI はきめ細かな (INI エントリごと) コントロールを許可しないため、この機能は移行できません。
粒度 uninstall.INI コントロール	この機能は、どの INI ファイルエントリがアンインストール時に削除されたかを ConsoleOne 内でのマークに基づいて管理者がコントロールできるようにします。たとえば、Novell Application Launcher に「create add to section」というマークが付いている INI エントリのみをアンインストールするように通知することができます。MSI はきめ細かな (INI エントリごと) コントロールを許可しないため、この機能は移行できません。
アイコン順序	Configuration Management はアイコンが表示される順序を制御しません。アプリケーションチェーンを使用すると、アプリケーションのインストール順序を制御できます。
負荷分散	新しいコンテンツシステムはゾーン全体ベースでこれを自動的に行います。デフォルトで、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバはコンテンツを相互に複製します。
MSI 管理者パス	MSI パッケージ情報がメタデータに保存されなくなったため、ZENworks コントロールセンター内の実際の MSI ファイルにアクセスする必要はなくなりました。また、ほとんどの MSI がコンテンツシステムにアップロードされます。
MSI オプションインストールパスランダム	負荷分散を自動的に実行する新しいコンテンツシステムに置き換わります。
MSI パッケージの説明	MSI パッケージの情報はメタデータに保存されなくなりました。これにより、MSI バンドル自体を処理せずに、MSI パッケージを容易に更新できるようになります。
MSI パッケージ識別子	MSI パッケージの情報はメタデータに保存されなくなりました。これにより、MSI バンドル自体を処理せずに、MSI パッケージを容易に更新できるようになります。
MSI パッケージサイズ	MSI パッケージの情報はメタデータに保存されなくなりました。これにより、MSI バンドル自体を処理せずに、MSI パッケージを容易に更新できるようになります。
Novell Licensing Service (NLS)	Configuration Management は NLS をサポートしません。
オンデマンド	Configuration Management は簡易 RDP および ICA セッションのみをサポートします。
RDP 色の深さ	色の深さは 256、32768、65536、または 16777216 である必要があります。
リモート代替アプリケーション	ZENworks Adaptive Agent は同じ内部または外部ファイアウォールを実行します。区別をしないため、この機能はこれ以降サポートされません。
レポート機能	Configuration Management はグローバルなレポートシステムを備えているため、レポートがアプリケーションベースで設定されることはなくなりました。

機能	コメント
16 ビットアプリケーションは別のセッションで実行されます。	Configuration Management は 16 ビットオペレーティングシステムをサポートしません。
サイトリスト	この機能は、ユーザが最も近い一致アプリケーションソースパスを使用して、アプリケーションをワークステーションにインストールできるようにします。新しいコンテンツシステムでは、これは自動的に行われます。
シンクライアント設定	Configuration Management は Novell Application Launcher がサポートに使用する機能のサブセットのみをサポートします。次の属性は除去されました。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ シンクライアントユーザ名(ターミナルサーバに資格情報は渡されません) ◆ シンクライアントパスワード(ターミナルサーバに資格情報は渡されません) ◆ シンクライアントプロトコル ◆ シンクライアント圧縮 ◆ シンクライアントシームレス
再起動のためのアンインストールプロンプト	この機能はサポートされなくなりました。各アンインストール時の再起動は Msiexec.exe が処理するようになりました。この機能のほとんどは MSISExec コマンドラインにパラメータを追加することによって処理されません。
ボリュームファイルシステム権限	Configuration Management はファイルシステムに権限を自動的に割り当てません。

A.2 イメージ

イメージファイルのマイグレーションを実行する管理者は、イメージファイル (.zmg) を読み込むための十分な権限を持っている必要があります。

以下のものが移行されます。

- ◆ 標準イメージ
- ◆ スクリプトイメージ
- ◆ マルチキャストセッションイメージ

ZENworks Configuration Management イメージングは従来の ZENworks イメージングファイル形式と後方互換性があるため、移行されたイメージングファイルは変更されません。

以下のものは移行されません。

- ◆ アドオンイメージ

ローカルワークステーションキャッシュに大幅な変更があるため、アドオンイメージは移行できません。これらは ZENworks コントロールセンターのバンドルの [サマリ] ページで再作成することができます。

- ◆ イメージングサーバとワークステーションポリシー

Configuration Management にはこれらのポリシーと同等のポリシーがないため、[ステップ4: ゾーン設定] マイグレーションタスクを使用して、代わりに管理ゾーン設定に移行されます。

A.3 ポリシー

移行できないポリシーはフィルタされ、マイグレーション用として表示されません。以下のポリシーが移行されます。

- ◆ Dynamic Local User (DLU)
- ◆ グループ
- ◆ イメージングサーバ
- ◆ イメージングワークステーション
- ◆ iPrint
- ◆ リモートコントロール
- ◆ ローミングプロファイル
- ◆ SNMP トラップターゲット

以下のものは移行されません。

表 A-2 Configuration Management に移行されないポリシー機能

機能	コメント
拡張可能コンピュータポリシー	拡張可能ポリシーは Configuration Management では存在しません。
グループポリシー	次の設定は移行されません。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザ設定のキャッシュ : Configuration Management では存在しません。 ◆ グループポリシーはユーザログアウト後も有効 : Configuration Management では存在しません。 ◆ グループポリシーループバックサポート : これはポリシーインフラストラクチャオプションで、すべてのグループポリシーがデバイスに割り当てられたときに定義されます。 ◆ 永続ワークステーション設定 : Configuration Management では存在しません。
スケジュールされたアクションのポリシー	これらのポリシーは実行可能ファイルのスケジュールされた起動を含みません。この機能は同じ機能を実行するために簡単なアプリケーションを使用して複製されます。したがって、Configuration Management 内では同等のポリシーは作成されません。代わりに ZENworks コントロールセンターでディレクティブバンドルを作成してこの機能を複製することができます。
拡張可能ユーザポリシー	拡張可能ポリシーは Configuration Management では存在しません。

機能	コメント
ワークステーションインベントリ	すべての ZENworks Asset Management インベントリのデータマイグレーションは、ZENworks Asset Management マイグレーションツールによって処理されます。従来の ZENworks Asset Management Workstation Inventory 前のデータは、データベーススキーマに大きな違いがあるため、移行されません。
zendmSearchPolicy	アプリケーションと類似していて、ポリシーはフォルダ、ユーザ、およびデバイスに割り当てられ、検索ポリシーの必要が削減されました。
zenimgWorkstationPolicy	事前ワークステーション管理ゾーン設定は、このポリシーに対して Configuration Management では利用できません。
zeninvDictionaryUpdatePolicy	新しい ZENworks Asset Management インベントリシステムには、Configuration Management に同等のポリシーはありません。
zeninvRollUpPolicy	新しい ZENworks Asset Management インベントリシステムには、Configuration Management に同等のポリシーはありません。ロールアップは管理ゾーンのプライマリサーバに対して ZENworks コントロールセンターで設定可能です。
zenlocDatabaseLocationPolicy	このポリシーはデータベースをレポートおよびインベントリ用に書き込むために見つけることに関連しています。Configuration Management はレポートとインベントリに別々のデータベースを使用するので、このポリシーは移行されません。
zenlocSMTPHostPolicy	Configuration Management は同等のポリシーを持ちません。
zenlocXMLTargetPolicy	このポリシーは ZENworks 6.5 および ZENworks 7.x のレポートを処理します。レポートは XML を介して送信されないため、Configuration Management には同等のポリシーはありません。
zenwmWorkstationImport	技術的にはワークステーションインポートポリシーを管理ゾーン設定に移行することは可能ですが、ZENworks コントロールセンターに数個のグローバルゾーン設定を手動で設定して移行した方が簡単です。ZENworks 7 では、Configuration Management で任意のフォルダレベルに階層的に登録ルールを設定できます。x1 つまたは複数のサーバに関連付けられたサーバパッケージにワークステーションインポートポリシーを設定する必要があります。これらの関係に対する単純な 1 対 1 のマッピングはありません。管理者がこれらの規則を手動で定義するほうが簡単です。
zenwmWorkstationRemoval	Configuration Management 内のワークステーション除去に関するポリシーはありません。
zenwmZENConfigPolicy	このポリシーは以前の ZENworks エージェントに適用されます。新しい ZENworks Adaptive Agent は新しい管理ゾーンによって制御され動作が異なります。
ダイナミックローカルユーザポリシー	<p>一時的ユーザキャッシュ設定が移行されません。ZENworks コントロールセンターで移行されたポリシーを編集して、次の操作を実行できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [一時的ユーザキャッシュの有効化] オプションを選択します。 2. [一時的ユーザのキャッシュ期間] オプションで、一時的ユーザアカウントをデバイスでキャッシュする日数を指定します。 <p>ポリシーの編集の詳細については、「ポリシーの編集」(『ZENworks 11 SP2 Configuration Policies リファレンス』)を参照してください。</p>

A.4 管理ゾーンの設定

次の2つの eDirectory オブジェクトは管理ゾーン設定として移行可能な属性を含んでいます。

- ◆ イメージングサーバポリシー設定
- ◆ ワークステーションランチャの環境設定

左側のビューにこれらの eDirectory オブジェクトのいずれかが表示されている場合、移行可能な各属性は下に一覧表示され、ユーザがマイグレーション用に個々の属性を選択できるようになっています。右側ビューは、移行される管理ゾーン設定のサブセットが表示されます。eDirectory から移行された属性は、ゾーン内の既存のターゲット設定を上書きします。

従来の ZENworks は、ランチャ環境設定を直接 User、Device、または Container オブジェクトに保存していました。Configuration Management は、これらの設定を ZENworks Explorer Configuration ポリシーと呼ばれる新しいポリシーに保存します。

移行ツールは以前のシステムの設定の小さなサブセットのみを新しい ZENworks Explorer Configuration ポリシーに移行します。さまざまな理由により、ほとんどのランチャ環境設定は Configuration Management 内の新しい ZENworks Explorer Configuration ポリシーでは使用されません。ゾーン全体に対して一つの設定のみですが、多くがグローバル管理ゾーン設定になっています。

ワークステーションの Launcher 設定は管理ゾーン設定に移行され、ユーザの Launcher 設定は ZENworks Explorer 設定ポリシーに移行されます。

どのツリーにも複数の Launcher 設定があるため、管理者にとっては、ZENworks コントロールセンターで管理ゾーン設定のセットを1つ手動で設定する方が容易です。

新しい ZENworks Explorer 設定ポリシーに移行できる Launcher 設定は、次のとおりです。

- ◆ デスクトップ上にアイコンを表示 (ルートフォルダ名になります)
- ◆ フォルダビューを有効にする
- ◆ 手動更新を有効にする
- ◆ 起動時にフォルダビューを展開する
- ◆ デスクトップアイコンの名前

管理ゾーン設定に移行できる Launcher 設定は、次のとおりです。

- ◆ 時間による更新を有効にする (ワークステーション)
- ◆ 更新頻度を設定する (ワークステーション)
- ◆ ランダムリフレッシュ分散を設定する
- ◆ 関連付けが解除されてからアンインストールされるまでの日数 (ワークステーション)

移行できない Launcher 設定は、次のとおりです。

- ◆ ユーザによる BITS 転送の上書きを許可する
- ◆ ユーザによる終了を許可する
- ◆ 常に参照を評価する
- ◆ 更新中にオンラインにする (ユーザ)

- ◆ 更新中にオンラインにする (ワークステーション)
- ◆ Application Launcher の自動起動
- ◆ すべてのポップアップウィンドウを前画面に表示する
- ◆ ブラウザの終了時に Application Launcher を終了する
- ◆ リモートアクセス検出方法を設定する
- ◆ システムトレイアイコンを表示
- ◆ 自動アイコンクリーンアップを有効にする
- ◆ BITS を有効にする (ユーザ)
- ◆ BITS を有効にする (ワークステーション)
- ◆ [すべて] フォルダを有効にする
- ◆ ヘルパを有効にする (ワークステーション)
- ◆ ミドルティアログインを有効にする
- ◆ ログインを有効にする
- ◆ パーソナルフォルダを有効にする
- ◆ リムーバブルキャッシュからの読み込みを有効にする (ユーザ)
- ◆ リムーバブルキャッシュからの読み込みを有効にする (ワークステーション)
- ◆ チェックポイントの [延期] ボタンを有効にする
- ◆ 時間による更新を有効にする (ユーザ)
- ◆ キャッシュへの書き込みを有効にする (ユーザ)
- ◆ キャッシュへの書き込みを有効にする (ワークステーション)
- ◆ アプリケーションのためにグループを読み込む (ユーザ)
- ◆ アプリケーションのためにグループを読み込む (ワークステーション)
- ◆ ウィンドウのサイズと位置を保存する
- ◆ アプリケーション継承レベルを設定する (ユーザ)
- ◆ アプリケーション継承レベルを設定する (ワークステーション)
- ◆ 更新頻度を設定する (ユーザ)
- ◆ 電子メール属性を指定する
- ◆ 最上位オブジェクト
- ◆ 関連付けが解除されてからアンインストールされるまでの日数 (ユーザ)
- ◆ [透かし絵の表示プロパティ]
- ◆ [透かし絵ソースのパス]

A.5 ワークステーション

Configuration Management は現在 Windows 2000 Support Pack 4、Windows XP SP2 ワークステーション、および Windows XP SP3 ワークステーションのマイグレーションのみをサポートしています。ワークステーショングループも移行できます。次のワークステーションオブジェクト属性は移行されます。

表 A-3 Configuration Management に移行されるワークステーション機能

機能	コメント
wmnamecomputer	ワークステーションの名前。
wmnamedns	ワークステーションのドメイン名サービス (DNS) 名。
wmnameos	ワークステーションのオペレーティングシステム。
wmnameuser	ワークステーションの所有者。これは、ワークステーションのマイグレーション元と同じツリーをポイントする認証ユーザソースが定義されている場合にのみ移行されます。
wmnetworkaddress	通常はワークステーションの IP アドレス。
zenwmid	ワークステーションの固有の ID。
zenwmmacaddress	ネットワークカード MAC アドレス。
zenwmsubnetmask	IP アドレスに合致するサブネットマスク。

Launcher 環境設定はポリシーと一緒に移行されます。アプリケーション関連付けは関連付けと一緒に移行されます。グループメンバーはワークステーショングループと一緒に移行されます。その他すべてのワークステーション属性は Configuration Management n 類似の属性がないために移行されません。

関連付けをワークステーションオブジェクトを含むコンテナに移行しようとしている場合は、ワークステーションタスク内のコンテナを移行してください。これは、コンテナの固有 ID を保持する唯一のマイグレーションタスクであるため、コンテナへの関連付けは保持されます。ユーザ関連付けでは、Configuration Management が同じユーザオブジェクトをポイントするユーザソースに依存しているため、固有の ID は常に古い ZENworks システムのもとの同じであるので、これは問題になりません。

A.6 関連付け

マイグレーションツールは直接関連付けのみを表示および移行します。Configuration Management は以前の ZENworks 製品が持っていたものと同じ間接関連付けコンセプトを持ちます。間接関連付けはオブジェクトをコンテナに関連付け、コンテナ内のすべてがそのコンテナ内の存在によってオブジェクトに関連付けられたときに作成されます。間接関連付けのすべてが移行され、移行されたオブジェクトが同じフォルダ構造に配置されたら、すべての間接関連付けは自動的に移行されます。

この関連付けタスクは意図的にマイグレーション画面の最後の手順としてリストされています。これは、関連付けの継承性 (Configuration Management での割り当て) が、「App A は User 1 に割り当てる」のように、2つのオブジェクト間に 1対1の関係を設定するためのものであるという理由によります。

ConsoleOne には直接関連付けのビューはありません。このため、ZENworks 環境によってはかなり複雑になる可能性があります。マイグレーションユーティリティは、ディスプレイフィルタを利用して、eDirectory 内にある既存の関連付けのサブセットを表示することで、こうした複雑性を解決しようとしています。各オブジェクトは選択したコンテナおよび選択したフィルタに基づいて表されます。各オブジェクトの下に、該当する関連付けがすべて表示されます。それぞれの関連付けには、そのオブジェクトタイプアイコンの上に 2 方向矢印 <--> のオーバーレイアイコンが付いています。複数の関連付けを選択して右側にドラッグすることも、オブジェクト全体をドラッグすることもできます。後者の場合、これにより、その関連付けはすべて [マイグレートする項目] キューに入ります。右側のビューには単に、選択したフィルタに基づいて既存の関連付けがすべて表示されます。

マイグレーションユーティリティはこのビューに 2 つのフィルタを追加して、関連付け表示速度の向上を図ります。最初のフィルタは、バンドル、ユーザ、ワークステーション、コンテナ、およびポリシーから選択可能なさまざまな組み合わせのみを強制的に表示するようにします。または、最後のオプションを選択してすべてのオブジェクトタイプを表示することもできます。2 番目のフィルタは、適格か不適格かに関係なくすべてのオブジェクトを表示するか、または適格な関連付けのみを表示します。適格な関連付けは関連付けがポイントするオブジェクトの両方ともが Configuration Management に存在するため、適格です。どの関連付けが適格であるかを計算するには数分間かかるため、このオプションはデフォルトではありません。このフィルタは [不適格および適格の両方を表示 (警告を表示)] と呼ばれ、どの関連付けが不適格であるかをユーティリティが判別して最後の表示コラムに理由を表示します。適格な関連付けもすべて表示されます。

関連付けの実際のマイグレーションは単純です。Configuration Management が両方のオブジェクトをポイントする新しい Assignment オブジェクトを作成します。アプリケーションでは、Configuration Management はこのマイグレーションプロセス中に Location Mask (ロケーションマスク) および Availability Schedule (使用可能スケジュール) も移行します。

マイグレーションオプション

オブジェクトを ZENworks Configuration Management に移行する前に、様々な設定を指定できます。次のセクションでは、マイグレーションオプションの設定について詳しく説明します。

- ◆ 95 ページのセクション B.1 「マイグレーションユーティリティによるマイグレーションオプションの設定」
- ◆ 100 ページのセクション B.2 「レジストリエディタによる MSI アプリケーションを移行する追加オプションの設定」

B.1 マイグレーションユーティリティによるマイグレーションオプションの設定


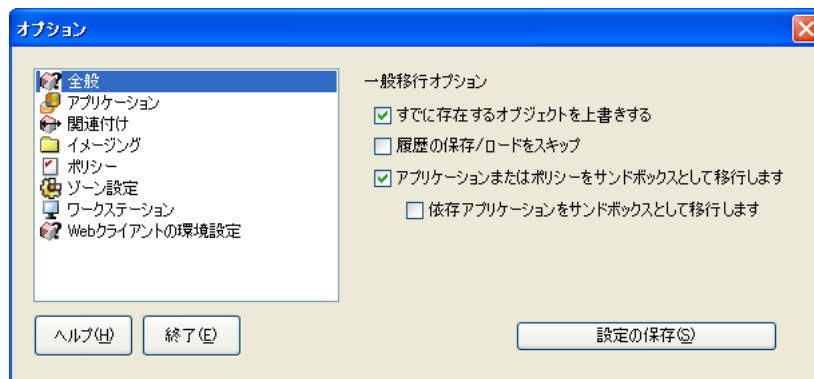
マイグレーションユーティリティの [オプション] ウィンドウを使用して一定のオプションを設定してから、オブジェクトを ZENworks Configuration Management に移行できます。[オプション] ウィンドウを起動するには、ユーティリティの右上隅で  をクリックします。

図 B-1 グローバルマイグレーションオプション



次のセクションで、マイグレーションユーティリティを使用したマイグレーションオプションの設定について確認してください。

- ◆ 96 ページのセクション B.1.1 「一般」
- ◆ 97 ページのセクション B.1.2 「アプリケーション」
- ◆ 99 ページのセクション B.1.3 「関連付け」
- ◆ 99 ページのセクション B.1.4 「イメージング」
- ◆ 99 ページのセクション B.1.5 「ポリシー」
- ◆ 99 ページのセクション B.1.6 「ゾーンの設定」
- ◆ 99 ページのセクション B.1.7 「ワークステーション」
- ◆ 100 ページのセクション B.1.8 「Web クライアント環境設定」

B.1.1 一般

すでに ZENworks Configuration Management に存在するオブジェクトを移行する場合は、**[すでに存在するオブジェクトを上書きする]** オプションを使用して、移行するオブジェクトに最新のオブジェクトを使用できます。既存のオブジェクトは、ZENworks Configuration Management データベース内の新しいマイグレーションオブジェクトで上書きされます。

注: **[すでに存在するオブジェクトを上書きする]** オプションを有効にして、アプリケーションを ZENworks Configuration Management に再度移行する場合、再度移行するアプリケーションのバージョンが既存の ZENworks Configuration Management バンドルのバージョン以上であることを確認してください。これは、バンドルが管理対象デバイスに割り当てられたときに不整合が発生しないようにするために必要です。

[履歴の保存/ロードをスキップ] オプションを使用すると、大規模なマイグレーションの際にローカル履歴を保存しないことによってパフォーマンスを大幅に向上することができます。

[アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行します] オプションを使用すると、アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行できます。このオプションはデフォルトで選択されています。割り当てたユーザまたはワークステーションが移行したアプリケーションまたはポリシーを使用できるようにするには、サンドボックスを発行する必要があります。

[依存アプリケーションをサンドボックスとして移行します] オプションを使用すると、依存アプリケーションもサンドボックスとして移行できます。

タスク	[アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行します] オプションが選択解除されています。	[アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行します] オプションが選択されています。
宛先ゾーンにまだ移行されていないアプリケーションまたはポリシーを移行します。	アプリケーションまたはポリシーが同じバージョンで宛先ゾーンに移行されます。	アプリケーションまたはポリシーがサンドボックスバージョンとして移行されます。宛先ゾーンでサンドボックスを発行する場合、発行したオブジェクト(アプリケーションまたはポリシー)のバージョンは移行時のバージョンと同じになります。 移行するアプリケーションの依存アプリケーションもサンドボックスとして移行できるようにするには、 [依存アプリケーションをサンドボックスとして移行します] オプションを選択します。

タスク	[アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行します] オプションが選択解除されています。	[アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行します] オプションが選択されています。
宛先ゾーンにすでに移行されているアプリケーションまたはポリシーを移行します。宛先ゾーンには、発行済みバージョンのオブジェクト (アプリケーションまたはポリシー) があります。	オブジェクト (アプリケーションまたはポリシー) が新しいバージョンのオブジェクトとして移行されます。バージョンの番号は、宛先ゾーンにあるオブジェクトの最後に発行されたバージョンより 1 増えます。	宛先ゾーンのオブジェクト (アプリケーションまたはポリシー) の最後に発行されたバージョンから、サンドボックスバージョンのオブジェクトが生成されます。 移行するアプリケーションの依存アプリケーションもサンドボックスとして移行できるようにするには、[依存アプリケーションをサンドボックスとして移行します] オプションを選択します。
宛先ゾーンにすでに移行されているアプリケーションまたはポリシーを移行します。宛先ゾーンには、サンドボックスバージョンのオブジェクト (アプリケーションまたはポリシー) があります。	移行したオブジェクト (アプリケーションまたはポリシー) が宛先ゾーンにある既存のサンドボックスバージョンを上書きし、新しいバージョンのオブジェクトとして発行されます。バージョンの番号は、宛先ゾーンにあるオブジェクトの最後に発行されたバージョンより 1 増えます。	移行したオブジェクト (アプリケーションまたはポリシー) が既存のサンドボックスバージョンのオブジェクトを上書きします。サンドボックスバージョンの発行を選択できます。 移行するアプリケーションの依存アプリケーションもサンドボックスとして移行できるようにするには、[依存アプリケーションをサンドボックスとして移行します] オプションを選択します。

B.1.2 アプリケーション

ユーティリティが、1 つまたは複数の属性を MSI に移行できなかった場合は、[失敗した MSI ビルドの移行] オプションを使用すると、強制的にアプリケーションのマイグレーションが行えます。

MSI バンドルは、AOT アプリケーションオブジェクトの MSI への変換時に警告が生成された場合、失敗するとみなされます。これらのバンドルは、警告にも関わらず正常に移行されることがよくあります。たとえば、AOT に含まれている Windows ショートカットリンクがもはや有効ではないために、警告が生成されることがあります。

このオプションを有効にする場合は、警告メッセージは表示されません。移行されなかった属性に関する情報についてのマイグレーションログを確認できます。

[作成された MSI および一時ファイルを保持する] オプションは、アプリケーションが作成されて移行されることを意味しますが、一時ファイルを保持しているディレクトリと新しい MSI ファイルは自動的に削除されません。これにより、Configuration Management 内のコンテンツサービスに組み込まれる前に新しく作成された MSI へアクセスできるようになります。

[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションを使用すると、コンテンツサーバにコンテンツをアップロードできます。デフォルトではこのオプションが選択されています。

アプリケーションは、Install MSI アクションとして ZENworks Configuration Management サーバに移行されます。また、[コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションが選択されており、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決される場合、コンテンツサーバにもアップロードされます。

このアプリケーションは Install Network MSI アクションとして ZENworks Configuration Management サーバに移行されますが、次のシナリオでは、コンテンツサーバにはアップロードされません。

- ◆ [コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションが選択解除されています。
- ◆ [コンテンツサーバへのアプリケーションのアップロード] オプションが選択されていますが、マイグレーション時にファイルのソースパスがローカルパスまたは UNC パスに解決されないか、ファイルが見つかりません。

[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションにより、INI 編集アクション、レジストリの編集アクション、または編集可能な実行スクリプトアクションなど、個々のアクションとしてアプリケーションの配布オプションを移行できます。デフォルトではこのオプションは選択されていません。[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションを選択解除すると、MSI としてアプリケーションの配布オプションを移行します。

[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが有効である場合は、アプリケーションは固有のアクションとして移行されます。

- ◆ レジストリの変更があるアプリケーションは、レジストリの編集アクションでバンドルとして移行されます。
- ◆ INI 設定があるアプリケーションは、INI ファイルの編集アクションでバンドルとして移行されます。
- ◆ テキストファイルの変更があるアプリケーションは、テキストファイルの編集アクションでバンドルとして移行されます。
- ◆ アイコンやショートカットがあるアプリケーションは、スクリプト実行アクションまたはファイルの削除アクションと共に Windows のバンドルとして移行されます。
- ◆ アプリケーションファイルの変更があるアプリケーションは、次のように移行されます。
 - ◆ ファイルのコピーアクションまたはファイルのインストールアクションとしてファイル。
 - ◆ ディレクトリのコピーアクション、インストールディレクトリアクション、またはディレクトリの作成 / 削除アクションとしてディレクトリ。
 - ◆ ファイルの削除アクションとしてファイルが削除されます。
 - ◆ ディレクトリの作成 / 削除アクションとしてディレクトリが削除されます。

[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションが無効である場合は、アプリケーションは MSI のインストールアクションとして移行されます。ただし、テキストファイル編集アクション、ディレクトリのコピー、ディレクトリのインストール、ファイル削除は、この MSI のインストールアクションの一環ではありません。

[作業ディレクトリ] オプションを使用すると、一時マイグレーションファイルをデフォルトユーザの %TEMP% ディレクトリとは異なる場所に配置することができます。長いパス (256 文字以上) を持つアプリケーションを移行する場合は、このオプションを使用すると c:\temp のように一時パスを短くすることができます。

B.1.3 関連付け

関連付けられたオブジェクトが存在しない場合は、マイグレーションを中止し、適切なマイグレーションタスクに転送してオブジェクトの作成を促します。まだマイグレーションを行っていないオブジェクトに対する関連付けを移行すると、オプションが適切なマイグレーションタスクへの転送を促します。オブジェクトを移行したら、[関連付け]に戻り、[今すぐ移行]をクリックして関連付けの移行を再開します。このオプションは、数個の項目のみを移行し、関連付けの失敗をその場で処理したい場合に便利です。無人マイグレーションを実行する場合は、このオプションを選択しないでください。

[マイグレーション先のユーザソースで、一致するエンティティを検索するコンテキストを指定します] オプションでは、グループおよびコンテナの関連付けのマイグレーション中に、一致するエンティティを検索するためのコンテキストを指定できます。コンテキストを指定しなかった場合、マイグレーション先のユーザソース全体で検索が行われます。

たとえば、マイグレーション先のユーザソースが migration.orgunit.org.com で、コンテキストを OU1/OU2/users として指定すると、ユーティリティは migration.orgunit.org.com/OU1/OU2/users 内で一致するエンティティを検索します。

コンテキストを指定しなかった場合、マイグレーション先のユーザソース全体、すなわち migration.orgunit.org.com で検索が行われます。

B.1.4 イメージング

コンテンツサーバにすでにイメージファイルが存在するイメージオブジェクトを移行する場合は、[コンテンツサーバ上の既存のイメージファイルを上書き] オプションを使用して、イメージファイルを上書きできます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

B.1.5 ポリシー

Novell eDirectory から Launcher Configuration を移行する場合は、[Launcher Configuration ポリシーの割り当て作成をスキップ] オプションを選択し、設定を Configuration Management の Launcher Configuration ポリシーに変換します。マイグレーション中に、同一オブジェクトから新しい Launcher Configuration ポリシーへの割り当ては、割り当てのスキップを選択して [オプション] ダイアログボックスでこの機能がオフになるまでは、自動的に作成されます。

B.1.6 ゾーンの設定

現在のところ、管理ゾーン設定用のグローバルなマイグレーションオプションは定義されていません。

B.1.7 ワークステーション

現在のところ、ワークステーション用のグローバルなマイグレーションオプションは定義されていません。

B.1.8 Web クライアント環境設定

[Web クライアント環境設定] を使用すると、コンテンツサーバにファイルをアップロードするための設定を行うことができます。

[データをチャンクで送信] オプションは、データをチャンクでアップロードします。このオプションはデフォルトで選択されます。マイグレーションユーティリティをホストするデバイスでプロキシが有効になっている場合、マイグレーションが失敗する可能性があります。マイグレーションを実行するには、[データをチャンクで送信] オプションを無効にします。

[接続を保持] オプションは、ZENworks Configuration Management サーバとの永続的な接続を確立します。

[読み書きタイムアウト] オプションを使用すると、読み込みまたは書き込み操作にタイムアウト時間を指定できます。デフォルトでは、このオプションは [なし] に設定されています。

[応答取得のタイムアウト] オプションを使用すると、ZENworks Configuration Management サーバから応答を受け取るためのタイムアウト時間を設定できます。デフォルトでは、このオプションは [なし] に設定されています。

デフォルト設定に戻すには、[デフォルトに戻す] をクリックします。

B.2 レジストリエディタによる MSI アプリケーションを移行する追加オプションの設定

デバイスに Migration Utility をインストールすると、次の表で指定された値を含むレジストリキーが HKLM\Software\Novell\ZCM\Migration\MSIOptions\ の下に作成されます。これらの値によって、移行された MSI アプリケーションのインストール時にユーザインターフェイスをどのくらい表示するか決定されます。

表 B-1 MSI アプリケーションを移行する追加オプション

キー	値	説明
デフォルト	/qb-	(Windows Installer によって選択される) 適切なユーザインタフェースレベルを表示します。
[SILENT]	/qn	ユーザインタフェースを表示しません。
進行状況	/qb!	簡潔な進行情報およびエラーメッセージやプロンプトを表示します。
[REDUCED]	/qr	ユーザインタフェースを完全に表示し、ウィザードダイアログボックスを抑制します。
フル	/qf	すべてのユーザインタフェース (ウィザードの各ダイアログ '83'7b'ボックス、進捗情報、エラーメッセージとプロンプトなど) を '95'5c 示します。
MigrateWithParentOptions	0	MSP をサイレントモードで移行します。

キーの値を編集することによって、移行した MSI アプリケーションのインストール時にデバイス上でどのくらいユーザインターフェイスを表示するか指定できます。

例：

[ユーザインターフェイスレベル] が [サイレント] に設定された MSI アプリケーションがあると想定します。このアプリケーションのインストール時に、デバイス上で簡単な進行状況情報とエラーメッセージまたはプロンプトを表示するには、アプリケーションを移行する前に、次の手順を実行します。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM\Software\Novell\ZCM\Migration\MSIOptions\ に移動します。
- 3 [サイレント] を右クリックして、[変更] をクリックします。
- 4 [文字列の編集] ダイアログボックスで、/qb! を [値] のデータオプションで指定します。
- 5 [OK] をクリックします。

デフォルトでは、MSP がサイレントモードで移行します。親 MSI と同じパラメータを持つ MSP を移行するには、次の手順に従います。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM\Software\Novell\ZCM\Migration\MSIOptions に移動します。
- 3 MigrateWithParentOptions の値を 1 に設定します。

トラブルシューティング

C

次のセクションでは、従来の ZENworks ソフトウェアを Novell ZENworks 11 Configuration Management SP2 に移行する際に発生する可能性のあるシナリオについて説明します。

- ◆ 103 ページの「アプリケーションのスケジュールが正しく移行されない」
- ◆ 104 ページの「マイグレーションの後、アプリケーションアイコンを使用できない」
- ◆ 104 ページの「マイグレーション中にマイグレーションユーティリティがハングする」
- ◆ 104 ページの「iPrint ポリシーを移行できない」
- ◆ 104 ページの「グループポリシーを移行できない」
- ◆ 105 ページの「管理対象デバイスで特定のオプションを指定した登録アクションが失敗する」
- ◆ 105 ページの「コンテンツサーバにアップロードされるべきオブジェクトを移行できない」
- ◆ 105 ページの「移行済みの Adobe MSI をインストールできない」
- ◆ 106 ページの「手動で作成したユーザがマイグレーションを実行できない」
- ◆ 106 ページの「マイグレーションユーティリティでユーザの関連付けを表示できない」
- ◆ 106 ページの「デバッグログを有効にする方法」
- ◆ 106 ページの「移行したアドオンイメージを使用できない」
- ◆ 106 ページの「Windows Vista デバイスでアプリケーションのマイグレーションに時間がかかる」
- ◆ 107 ページの「従来の ZENworks Imaging Server ポリシーで設定された PXE メニュー設定のマイグレーションが失敗する」
- ◆ 107 ページの「AOT アプリケーションの移行が不可能」
- ◆ 107 ページの「iPrint ポリシーに関連付けられているポリシーセットアップファイルのない iPrint ポリシーの移行が不可能」

アプリケーションのスケジュールが正しく移行されない

説明： サマータイム中に使用可能なスケジュールが設定されているアプリケーションを移行すると、スケジュールは正しく移行されません。たとえば開始日を 2/11/08 と指定し、終了日を 10/11/08 と指定すると、アプリケーションは開始日が 1/11/08、終了日が 9/11/08 として移行されます。

アクション： マイグレーションが完了した後、ZENworks コントロールセンターを使用して手動でスケジュールを修正してください。

マイグレーションの後、アプリケーションアイコンを使用できない

説明： アプリケーションオブジェクトが MSI バンドルとして ZENworks Configuration Management に移行されると、アプリケーションのアイコンのいくつかが使用できなくなり、ログに次のエラーが表示される場合があります。

```
ISDEV: error -1024: message string.
```

このエラーは管理対象デバイスのバンドルの機能には影響はありません。またマイグレーションは成功しています。

アクション： エラーを無視してください。

マイグレーション中にマイグレーションユーティリティがハングする

説明： 500 INI セクション以上ある AOT アプリケーションを ZENworks Configuration Management に移行すると、マイグレーションユーティリティツールはハングします。

アクション： なし。

iPrint ポリシーを移行できない

説明： nipp.exe クライアントインストラーによって設定された iPrint ポリシーは、nipp.exe ではサイレントインストールはサポートされていないため、ZENworks Configuration Management に移行されません。

アクション： 従来の ZENworks で、iPrint policy が nipp-s.exe または nipp.zip クライアントのインストラーを使用するように設定し、その後で移行します。

グループポリシーを移行できない

説明： 従来の ZENworks で、認証を必要とする共有フォルダの UNC パスを指定してグループポリシーを設定している場合、Windows Vista SP1 デバイスにインストールされているマイグレーションユーティリティを使用してポリシーを ZENworks Configuration Management に移行すると、Vista デバイスはネットワークフォルダにアクセスできないためマイグレーションは失敗します。

アクション： 次を実行します。

1. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。system32 を指定してから、[OK] をクリックします。
2. cmd.exe を右クリックして、[管理者として実行] を選択します。
3. コマンドプロンプトで「explorer」と入力して、Explorer ウィンドウを起動します。
4. Explorer ウィンドウで、[ツール] > [ネットワーク ドライブの割り当て] をクリックしてネットワークの場所を割り当てます。
5. ユーザのアカウント情報を入力し、そのパスに設定されているポリシーまたはアプリケーションを移行します。

管理対象デバイスで特定のオプションを指定した登録アクションが失敗する

説明： レジストリおよび INI だけに変更されており、[存在する場合に作成]、[削除]、[存在する場合に追加し、そうでなければ作成]、あるいは [ソフトウェア配布で存在する場合に付加し、そうでなければ作成] オプションなどのオプションが指定されているアプリケーションを MSI として移行すると、管理対象デバイスでオプションは失敗します。

アクション： 次の手順 w 実行して、アプリケーションを MSI ではなく個々のアクションとして移行します。

1. マイグレーションユーティリティを起動します。
2. [移行ツールの設定] アイコンをクリックした後、[アプリケーション] をクリックします。
3. [配布オプションを個別のアクションとして移行] オプションをオンにします。
4. レジストリが変更されているアプリケーションを宛先ゾーンに移行します。アプリケーションは、Regedit アクションを持つ Windows バンドルとして移行されます。

コンテンツサーバにアップロードされるべきオブジェクトを移行できない

説明： コンテンツサーバにアップロードされるべきオブジェクトを移行する際、マイグレーションユーティリティでは移行の失敗によるエラーが発生する場合があります。

考えられる原因： マイグレーションユーティリティをホストしているデバイスで有効になっているプロキシがデータを送信するよう設定されていないか、ファイルをコンテンツサーバにアップロードする際にサーバと永続的な接続を確立している。

アクション： [Web クライアント設定] オプションを使用してファイルをコンテンツサーバにアップロードするための設定を構成し、もう一度移行してみます。詳細については、[100 ページのセクション B.1.8 「Web クライアント環境設定」](#)を参照してください。

考えられる原因： リモートサーバとの接続に失敗した可能性がある。

アクション： マイグレーションの宛先ゾーンにログインする際に指定したファイルアップロード *Http* ポートが、ZENworks Configuration Management サーバで設定されているポートと同じであることを確認してください。

移行済みの Adobe MSI をインストールできない

考えられる原因： Adobe Flash Player プラグインがデバイスにインストールされている。

アクション： デバイスにバンドルを展開する前に、管理対象デバイスで次のステップを実行してください。

- 1 コマンドプロンプトを開きます。
- 2 Flash Player プラグインインストールディレクトリに移動します。デフォルトのインストールディレクトリは C:\WINDOWS\system32\Macromed\Flash です。

- 3 次の手順を実行して既存の Flash ファイルの登録エントリのロックを解除します。
- ◆ uninstfl.exe ファイルが使用可能な場合は、次のコマンドを実行します。
uninstfl.exe -u
 - ◆ NPFSW32_FlashUtil.exe など、*FlashUtil.exe と一致する名前のファイルが使用可能な場合は、次のコマンドを実行します。
*FlashUtil.exe -uninstallUnlock -u
- 4 管理対象デバイスでバンドルを展開します。

手動で作成したユーザがマイグレーションを実行できない

考えられる原因： ユーザは、マイグレーションオブジェクトを含むコンテナのトラスティとして eDirectory に設定されていない。

アクション： 管理者権限を提供するほかに、ユーザは移行するオブジェクトを含むコンテナの保管人としても設定されている必要があります。保管人追加の詳細については、『*ConsoleOne ユーザガイド* (<http://www.novell.com/documentation/consoll3/>)』を参照してください。

マイグレーションユーティリティでユーザの関連付けを表示できない

説明： アプリケーションがユーザコンテナに関連付けられている場合、マイグレーションユーティリティはコンテナレベルで関連付けを一覧表示します。ただし、関連付けはコンテナ内の個々のユーザに適用されません。関連付けを移行すると、コンテナ内のすべての個々のユーザの関連付けが移行されます。

アクション： なし。

デバッグログを有効にする方法

アクション： ログを有効にするには、[Novell Support Knowledgebase](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3418069 を参照してください。

移行したアドオンイメージを使用できない

説明： 従来の ZENworks でアプリケーションをエクスポートして作成したアドオンイメージは、ZENworks Configuration Management では有効ではありません。これらのアドオンイメージをベースイメージまたはその他と組み合わせて移行した場合は、削除する必要があります。

アクション： ZENworks Configuration Management から手動でアドオンイメージを削除します。

Windows Vista デバイスでアプリケーションのマイグレーションに時間がかかる

説明： AOT または AXT アプリケーションを MSI アプリケーションへ移行する場合、Windows Vista デバイスでは比較的時間が掛かります。

アクション： なし。

従来の ZENworks Imaging Server ポリシーで設定された PXE メニュー設定のマイグレーションが失敗する

アクション: 従来の ZENworks Imaging Server ポリシーを ZENworks 10 Configuration Management に移行した後、手動で PXE メニュー設定を指定します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックして [Preboot Services] をクリックします。
- 3 目的の PXE オプションを設定します。
- 4 [OK] をクリックします。

AOT アプリケーションの移行が不可能

説明: Migration Utility が以前に AdminStudio がインストールされているデバイスにインストールされると、次のエラーで AOT アプリケーションのマイグレーションに失敗します。

```
Could not locate Admin Studio's AOTAXT Converter. The converter is required to convert an AOT/AXT file to an MSI package.
```

アクション: Migration Utility は、以前に AdminStudio をインストールしていないデバイスにインストールする必要があります。

iPrint ポリシーに関連付けられているポリシーセットアップファイルのない iPrint ポリシーの移行が不可能

説明: セットアップファイルのない iPrint ポリシーを移行すると、次のエラーでマイグレーションに失敗します。

```
No iPrint setup file was found cannot continue.
```

アクション: セットアップファイルのない iPrint ポリシーを移行するデバイスで、次のステップを実行します。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM\Software\Novell\ZCM\Migration\ に移動します。
- 3 (条件付き) SkipIPrintClientValidation という名前の文字列がすでに存在している場合には、この文字列の値が false に設定されていることを確認します。

または

SkipIPrintClientValidation という名前の文字列を作成し、その値を false に設定します。

ベストプラクティス

次のセクションでは、従来の ZENworks ソフトウェアを Novell ZENworks 11 Configuration Management SP2 に移行する際のベストプラクティスについて説明します。

- ◆ 109 ページのセクション D.1 「Windows Vista デバイスでのマイグレーションユーティリティの実行」
- ◆ 109 ページのセクション D.2 「マイグレーションオプションの選択」
- ◆ 109 ページのセクション D.3 「オブジェクトをコンテンツサーバにアップロード」
- ◆ 110 ページのセクション D.4 「アプリケーションをアクションまたは MSI として移行」
- ◆ 110 ページのセクション D.5 「ネットワークファイルの使用」
- ◆ 111 ページのセクション D.6 「マイグレーションユーティリティで関連付けをリスト」
- ◆ 111 ページのセクション D.7 「マイグレーションユーティリティで AppFsRights 属性を持つアプリケーションオブジェクトをリスト」
- ◆ 111 ページのセクション D.8 「ファイルアップロード HTTP ポートと Web サービスポートを指定して、移行先管理ゾーンにログイン」
- ◆ 111 ページのセクション D.9 「グループポリシーの移行」
- ◆ 111 ページのセクション D.10 「個々のアクションとして多数の INI またはレジストリ操作を含むアプリケーションを移行」

D.1 Windows Vista デバイスでのマイグレーションユーティリティの実行

Windows Vista デバイスでマイグレーションユーティリティを実行して、従来の ZENworks アプリケーションオブジェクトを MSI ファイルとして移行すると、パフォーマンスは低下します。パフォーマンスを改善するには、Windows XP SP2 または Windows XP SP3 デバイスでマイグレーションユーティリティを実行します。

D.2 マイグレーションオプションの選択

マイグレーションは、マイグレーションユーティリティを介して設定されたマイグレーションオプションに基づいて実行されます。オブジェクトを移行する前に、マイグレーションに最も適したオプションを選択するため使用可能なすべてのマイグレーションオプションに目を通してください。各種のマイグレーションオプションの詳細については、95 ページの付録 B 「マイグレーションオプション」を参照してください。

D.3 オブジェクトをコンテンツサーバにアップロード

- ◆ コンテンツをコンテンツサーバにアップロードする必要があるアプリケーションを移行すると、マイグレーションが失敗する場合があります。マイグレーションの宛先ゾーンにログインする際 [HTTP ポートのファイルアップロード] オプションで指定したポートが、ZENworks Configuration Management サーバをインストールする際に設

定したポートと一致していることを確認します。ZENworks Configuration Management サーバをインストールする際のポート設定の詳細については、「[インストールの実行](#)」を参照してください。

- ◆ コンテンツサーバにアップロードする必要のある大きなアプリケーションを移行する際、サーバとの接続が切断され、マイグレーションが失敗する場合があります。サーバと永続的な接続を確立するためには、Web クライアントの設定で「[応答取得のタイムアウト](#)」が「なし」に設定されていることを確認します。詳細については、[100 ページのセクション B.1.8 「Web クライアント環境設定」](#)を参照してください。
- ◆ コンテンツサーバにアプリケーションをアップロードしない場合は、アプリケーションを移行する際に「[コンテンツサーバにアップロード](#)」オプションを選択解除します。オプションを選択解除すると MSI アプリケーションはネットワーク MSI のインストールアクションでバンドルとして移行され、ネットワークパスから MSI がインストールされます。デフォルトでは、「[コンテンツサーバにアップロード](#)」オプションは有効です。」オプションの詳細については、[97 ページのセクション B.1.2 「アプリケーション」](#)を参照してください。

D.4 アプリケーションをアクションまたは MSI として移行

- ◆ 従来の ZENworks でスナップショットマネージャなどのツールを使用して、レジストリ、INI、およびファイルコピーなど複数の変更がある複雑なアプリケーションオブジェクトを作成している場合、「[個別アクションとして配布オプションを移行](#)」オプションを無効にして、MSI としてアプリケーションを移行する必要があります。マイグレーションオプションの詳細については、[97 ページのセクション B.1.2 「アプリケーション」](#)を参照してください。
- ◆ 従来の ZENworks でスナップショットマネージャなどのツールを使用して、レジストリ、INI、およびファイルコピーなど複数の変更がある複雑なアプリケーションオブジェクトを作成している場合、あるいは後でアプリケーションオブジェクトを編集する必要がある場合は、「[個別アクションとして配布オプションを移行](#)」オプションを無効にして、アクションとしてアプリケーションを移行する必要があります。
- ◆ アプリケーションが他のアプリケーションに従属している場合、従属関係のあるアプリケーションを確認し、要件に応じて MSI またはアクションとしてアプリケーションを移行してから、従属アプリケーションを移行します。
- ◆ 大きなレジストリキーとファイル操作を伴うアクションを含むアプリケーションを移行する場合は、それらのアプリケーションを MSI として移行することを推奨します。アプリケーションは、アクションとして移行されると、正常に宛先ゾーンに移行しても、宛先ゾーン内で失敗する場合があります。

D.5 ネットワークファイルの使用

- ◆ 従来の ZENworks アプリケーションオブジェクトでネットワーク共有でホストされているファイルを使用している場合、マイグレーションツールをホストしているデバイスでネットワーク共有をマッピングする必要があります。
- ◆ デフォルトでは、アプリケーションはマイグレーションのときにコンテンツサーバにアップロードされます。アプリケーションファイルが共有ネットワークにあり、引き続きネットワークファイルを使用したい場合は、「[コンテンツサーバにアップロード](#)」オプションを選択解除します。」オプションの詳細については、[97 ページのセクション B.1.2 「アプリケーション」](#)を参照してください。

D.6 マイグレーションユーティリティで関連付けをリスト

マイグレーションユーティリティでリストする関連付けが多過ぎる場合、[マイグレーションの資格ありまたは資格なし(警告なし)] オプションをオンにして、ユーティリティで関連付けをリストするのにかかる時間を短縮できます。

D.7 マイグレーションユーティリティで AppFsRights 属性を持つアプリケーションオブジェクトをリスト

eDirectory で AppFsRights 属性が設定されているアプリケーションオブジェクトは、マイグレーションユーティリティではリストされません。マイグレーション用にこれらのアプリケーションをリストするためには、AppFsRights 属性を削除します。属性削除の詳細については、[Novell Cool Solutions Community \(http://www.novell.com/communities/cool solutions\)](http://www.novell.com/communities/cool solutions) で LDAP 属性の削除に関する記事を検索してください。

D.8 ファイルアップロード HTTP ポートと Web サービスポートを指定して、移行先管理ゾーンにログイン

移行先管理ゾーンにログインするには、サーバに設定されたファイルアップロード HTTP ポートと Web サービスポートを指定します。デフォルトで、ファイルアップロード HTTP ポートは 80、Web サービスポートは 443 です。

[ゾーンログイン] ダイアログボックスで、[ゾーン] フィールドで管理ゾーンを選択すると、[ファイルアップロード HTTP ポート] フィールドと [Web サービスポート] フィールドにデフォルトポートが自動的に入力されます。ただし、サーバに設定されたポートがデフォルトポートとは異なる場合は、サーバで設定されたポートを指定してください。

移行先管理ゾーンへのログインの詳細は、[51 ページのセクション 5.4 「マイグレーション先の選択」](#) を参照してください。

D.9 グループポリシーの移行

Windows グループポリシーを移行する前に、[*Network location of existing/new Group Policies(既存または新規のグループポリシーのネットワークの場所)*] で指定されたフォルダに、グループポリシーファイル以外のファイルが含まれていないことを確認します。

D.10 個々のアクションとして多数の INI またはレジストリ操作を含むアプリケーションを移行

[個別アクションとして配布オプションを移行] オプションを選択し、多数の INI またはレジストリの操作を含むアプリケーションのマイグレーションを選択した場合、アプリケーションは、HKCU\Software\Novell\ZCM\Migration\MaxOperationsPerAction レジストリキーの値に基づいて複数のアクションとして移行されます。このキーのデフォルト値は 100 です。

たとえば、複数の INI またはレジストリの操作を含むアプリケーションを移行する場合、アプリケーションは、アクションごとに 100 の操作を含む複数のアクションとして移行されます。

このキーの値は変更しないことを推奨します。大きな値を使用すると、CPU の使用率が高くなり、メモリ不足例外が発生する可能性があります。